

# 長野県埋蔵文化財センター年報29

2 0 1 2

(財) 長野県文化振興事業団  
長野県埋蔵文化財センター



中野市千田遺跡出土の縄文土器



中野市南大原遺跡出土の弥生土器





佐久市近津遺跡群出土の古墳時代土器



佐久市兜山古墳全景





佐久市周防畑遺跡群出土の獣脚風字硯



飯田市神之峯城跡全景

# 目 次

## 口絵写真

- ・ 中野市 千田遺跡出土の縄文土器
- ・ 中野市 南大原遺跡出土の弥生土器
- ・ 佐久市 近津遺跡群出土の古墳時代土器
- ・ 佐久市 兜山古墳全景
- ・ 佐久市 周防畑遺跡群出土の獣脚風字硯
- ・ 飯田市 神之峯城跡全景

## 目 次

I 2012 年度の埋蔵文化財センター .....	1	(7) 奥日影遺跡ほか .....	25
		(8) 満り久保遺跡ほか .....	26
II 発掘作業の概要 .....	2	IV 普及公開活動の概要 .....	
(1) 南大原遺跡 .....	3	(1) 国補事業の概要 .....	27
(2) 琵琶島遺跡 .....	4	(2) 展示会・講演会 .....	29
(3) 浅川扇状地遺跡群 .....	5	(3) 現地説明会 .....	30
(4) 風張遺跡 .....	8	V 研修等の概要 .....	
(5) 神之峯城跡 .....	10	(1) 講師招聘などによる指導 .....	31
(6) 兜山遺跡 .....	12	(2) 全埋協等への参加 .....	31
(7) 東山遺跡 .....	15	(3) 研修および資料調査 .....	32
(8) 大沢屋敷遺跡 .....	15	(4) 学会・研修会などでの発表 .....	32
(9) 寺久保遺跡 .....	16	(5) 市町村・関係機関などへの協力 .....	33
(10) 庚申古墳 .....	17	(6) 学校関係への協力・指導 .....	34
(11) 馬越下遺跡 .....	17	(7) 資料の貸し出し .....	34
III 整理作業の概要 .....	18	VI 組織・事業の概要 .....	35
(1) 千田遺跡、川久保・宮沖遺跡 .....	19	(1) 組 織 .....	
(2) 沢田鍋土遺跡ほか .....	20	(2) 職 員 .....	
(3) 近津遺跡群ほか .....	21	(3) 事 業 .....	
(4) 西近津遺跡群 .....	22	奥付 .....	
(5) 周防畑遺跡群 .....	23		
(6) 森平遺跡ほか .....	24		

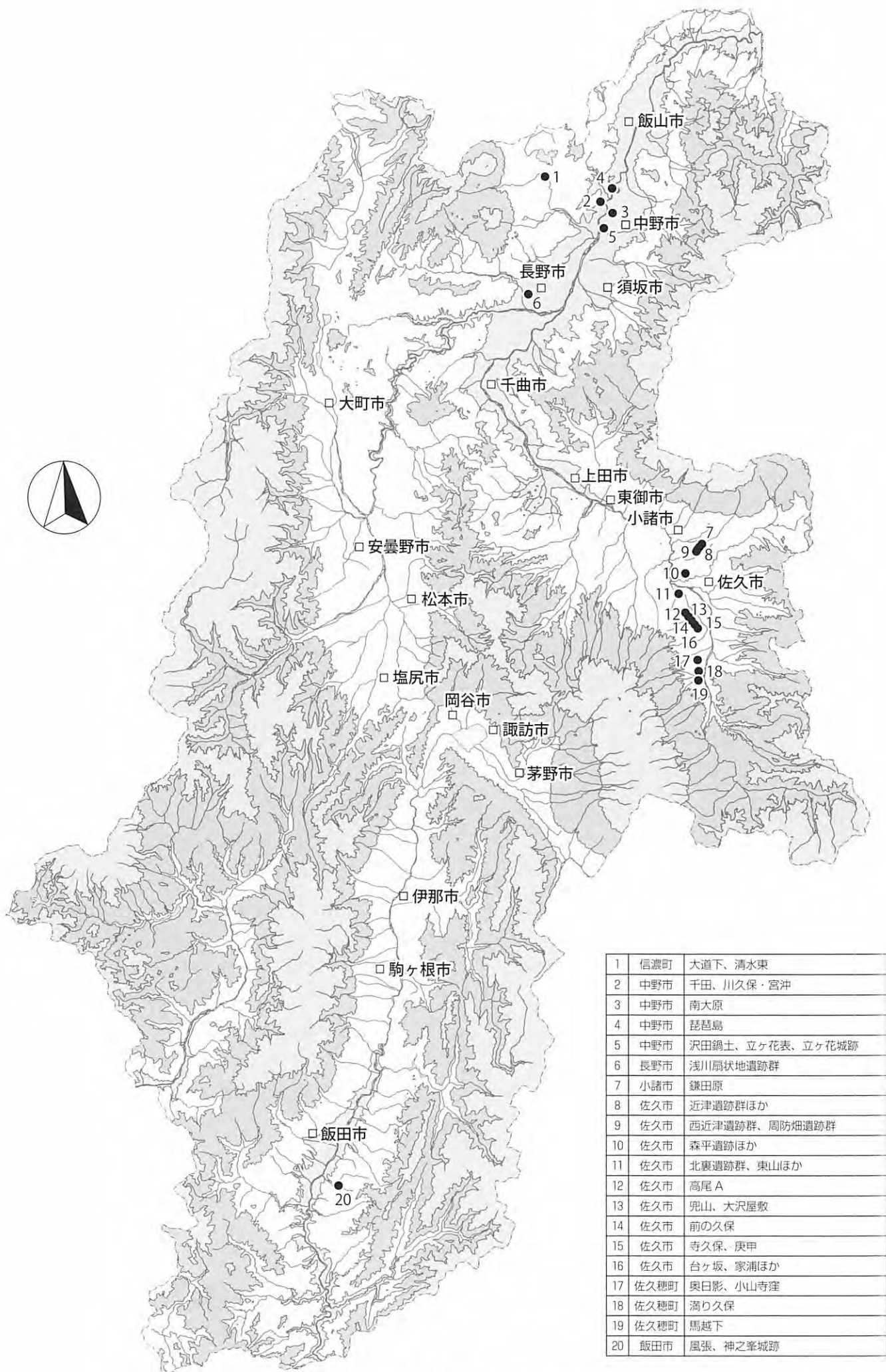


図1 平成24年度発掘・整理作業対象遺跡



## I 2012 年度の事業概要

本年度は 8 件の開発事業にかかる発掘・整理作業を受託し、発掘体験、遺跡解説板の設置、速報展等の普及公開に関わる自主事業を行った。

発掘作業のうち、調査の対象となった遺跡は 12 ヶ所、総面積 52,268㎡で、すべて継続事業である。また、36 遺跡の整理作業を進め報告書 5 冊を刊行した。事業費総額は 619,523 千円（対前年度比 93%）である。

以下、発掘作業・整理作業の成果を時代ごとに概観してみよう。

■旧石器時代 高尾 A 遺跡（佐久市）、満り久保遺跡（佐久穂町）出土の黒曜石について、蛍光 X 線分析装置を用いた産地推定を行った。その結果、高尾 A 遺跡の旧石器時代に属するすべての黒曜石 288 点が蓼科冷山群に推定された。満り久保遺跡出土の黒曜石 3,085 点中 1,820 点を分析し、蓼科冷山群が 1,723 点と最も多かった。当時の黒曜石流通を考える上で貴重な成果が得られた。

■縄文時代 千田遺跡（中野市）では、縄文時代中期勝坂式古段階から加曽利 E Ⅲ式期にかけて、住居跡 50 軒を超える、外径約 90m の大規模な環状集落の内容を明らかにできた。また、大沢屋敷遺跡（佐久市）では、昨年度に引き続いて、縄文時代後期の土坑を調査した。

沢田鍋土遺跡（中野市）では、県内では希少な事例となる堀之内 1 式期の粘土採掘跡を報告した。

■弥生時代 昨年度からの継続調査である南大原遺跡（中野市）では、竪穴住居跡は検出できなかったが、中期後半期の多量の遺物が出土した大溝跡の続きなどを調査している。

琵琶島遺跡（中野市）では、中期後半期の北陸地方に調査事例の多い平地建物跡に類似した馬蹄形や円環形を呈する溝状の遺構を調査した。浅川扇状地遺跡群（長野市）では、新たに後期の竪穴住居跡を 5 軒発見した。時期は吉田式期、箱清水式期の 2 時期と考えられる。

■古墳時代 兜山遺跡（佐久市）では、7 世紀後半から 8 世紀頃に築造と考えられる横穴式石室を調査した。この石室は丘陵斜面をコの字形に掘り

込み、斜面下方に敷土をした整地面上に構築されている。石室は南に開口する。石室内からは、鉄鏃や刀子、土師器、青磁碗片、人骨、歯などが出土した。また、遺物の出土状況や人骨の年代測定結果などから、石室が再利用されていることがわかった。今回の調査は、古墳の調査例が少ない佐久平の千曲川左岸域における貴重な成果である。

近津遺跡群（佐久市）は、この地域に特有の「田切り地形」が発達した火砕流台地の縁辺部に立地する遺跡で、古墳時代前期を中心とした小規模な集落である。佐久平北部では、弥生時代中期に集落形成が始まり、後期になると大規模集落が密集してみられる。古墳時代前期には集落が分散化・小規模化するが、近津遺跡群の調査はこれを追認する成果として報告した。

■古代 昨年に引き続き、浅川扇状地遺跡群で奈良・平安時代の竪穴住居跡 36 軒を発掘した。昨年度出土した「筆立て付円面硯」は、県内初の出土となり注目されたが、今回、新たな破片が出土している。また、寺久保遺跡（佐久市）は、谷あいの遺跡であるが、竪穴住居跡を 1 軒調査し、山間部の小規模集落の事例として評価される。

奥日影遺跡（佐久穂町）で、平成 22 年度に発見された須恵器窯跡から出土した須恵器蓋の観察から胎土に黒曜石が混入していることがわかり、今後、須恵器の供給先を考える上で興味深い成果となった。

■中近世 室町～戦国時代に下伊那の天竜川左岸を治めた在地国人である知久氏の本城とされる神之峯城跡（飯田市）を調査した。検出された礎石建物跡は伝承されている「法心院」に関わる可能性があり、次年度の調査に期待が寄せられる。

風張遺跡（飯田市）では、近世の 4 間×5 間の掘立柱建物跡が調査され、建物内部では囲炉裏と推定される焼土跡や間取りを想定させる柱穴等が認められた。

庚申古墳（佐久市）は古墳として登録されていたが、発掘の結果、埋葬施設はなく、近世以降の塚であることが判明した。

## Ⅱ 発掘作業の概要

遺跡名	所在地	事業名	面積㎡	調査期間	時代・内容	主な遺物
ふなみおほはら 南大原	中野市	県道三水中野線	360	10月23日～ 12月11日	弥生時代：溝跡、櫓跡、土坑	弥生時代：土器、石器
ひわじま 琵琶島		県道豊田中野線	4,307	4月9日～ 10月31日	弥生時代：竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、櫓跡、土坑 平安時代：焼土跡	縄文～古墳・平安時代：土器 縄文～弥生時代：管玉、石皿など 近世：陶磁器
あさかわせんじょうち 浅川扇状地	長野市	県道高田若槻線	5,700	4月16日～ 12月4日	弥生～奈良・平安時代：竪穴住居跡 弥生時代：溝跡、流路跡 古代：掘立柱建物跡 古代～中世：墓、溝跡、流路跡 古墳時代～中世：土坑	縄文時代～中世：土器、陶磁器 弥生時代：石器・石製品（石鏃、磨製石斧、打製石斧ほか） 古代～中世：砥石、刀子、銭貨、人骨、獣骨
かざはり 風張	飯田市	飯喬道路	14,680	4月10日～ 8月17日	中世：竪穴住居跡、水溜め遺構、土坑 中世～近世：掘立柱建物跡、溝跡、土坑、焼土跡	縄文時代：石器（打製石斧、石鏃） 平安時代：土師器 中世：かわらけ 近世以降：陶磁器、煙管、銭貨、木杵・杭
かんのね 神之峯			15,199	8月17日～ 12月20日	中世：礎石建物跡、墓坑、焼土跡、土坑、溝跡 近世：掘立柱建物跡、溝跡、土坑、焼土跡、櫓列、石列	平安時代：壺 中世：青磁碗、染付、瀬戸美濃産天目茶碗、丸皿等、硯、銭貨 近世以降：釘、銭貨
かよやま 兜山	佐久市	中部横断自動車道	30	5月15日～ 8月28日	古墳時代：古墳	縄文時代：土器、石器（打製石斧・石鏃） 古墳～中世：土器、金属器、陶磁器
ひがしやま 東山			450	10月22日～ 11月6日	中世：溝跡、不明：土坑	土師器
おおさわやしき 大沢屋敷			582	8月28日～ 9月21日	縄文時代：土坑	縄文時代：土器、剥片
てらくぼ 寺久保			10,000	7月17日～ 11月22日	平安時代：竪穴住居跡	縄文時代：土器 平安時代：土師器、須恵器、砥石
こうしん 庚申			200		近世以降：塚	古代：土師器 近世以降：陶磁器
まこえた 馬越下			230	4月9日～ 4月27日	なし	中世：陶器
まえのくぼ 前の久保			530	11月1日～ 11月6日	なし	なし



# みなみおおはら (1) 南大原遺跡

(県道三水中野線関連)

所在地及び交通案内：中野市上今井字南大原  
上信越自動車道中野 IC から北西約 2.6km。

遺跡の立地環境：旧千曲川左岸に発達した沖積地上に立地し、調査地点は現在の千曲川にかかる上今井橋のたもと付近(大俣入口バス停隣接地)である。

なお、千曲川は明治 3 年に現在の位置に開削された。遺跡形成時の立地は著しい曲流部のある舌状地形上で、遺跡が比較的広範に及んでいたと考えられる。

## 発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
24.10.23 ~ 12.11	360㎡	黒岩 隆 前田一也

## 検出遺構

遺構の種類	数	時期
溝跡	1	弥生中期後半（栗林式期）
柵跡	1	同上
土坑	28	弥生中期後半主体

## 旧千曲川左岸の自然堤防上に展開する

### 弥生時代中期後半のムラ

今年度は、昨年度と昭和 54 年調査区の南西側、県道三水中野線に沿って細長く伸びた狭小な場所である。これまでの調査では、竪穴住居跡が 7 軒確認されているが、今年度の発見はなかった。

調査区東側には、5 本の柱が東西方向に並ぶ柵跡と考えられる土坑の列が発見された。柵跡は、昨年度調査区から続く大溝の東側にあり、集落域の外側を囲むように延びる可能性がある。

昨年度大量の弥生土器が出土した大溝は調査区の中央で確認され、南西方向に延びていくと想定される。大溝を挟んで西側は遺構が少なく、旧千



図 2 南大原遺跡の位置 (1 : 50,000 中野)

## 出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器	弥生中期後半（栗林式期）～後期初頭
石器	弥生中期後半（石鏃ほか）

曲川の後背湿地（低地部）にあたると考えられる。水田の存在も想定できたが、採取した土壌によるプラントオパール分析の結果、低地部の水田利用を積極的に支持するものとはならなかった。

## 遺構・遺物の特色

大溝は、昨年度のような遺物の出土状況ではなかったが、半完形に復元できる土器が数点検出された。埋没土からは、貯水や流水の痕跡は認められなかった。さらに土壌の珪藻分析により、溝内は常に水に満たされているような状態ではなかった可能性が指摘された。

その他、土坑の中に甕形土器が一個体分、廃棄された状態で出土した。ブロック状に埋土が堆積し、上部に土器の破片が入れられていた。昨年度も壺形土器が入った土坑の出土事例があり、関連性を検討していきたい。

## 今後の発掘調査予定

次年度は、発掘調査最終年度であり、調査予定区は県道を挟んだ東側となる。今年度の段丘の高まりの続きとなる場所であり、弥生時代中期後半期の集落跡が続く可能性がある。さらに、縄文時代前期の「南大原式土器」を出土したこの遺跡の中心地に近いところであるため、さらなる成果が期待される。

## (2) びわじま 琵琶島遺跡

(県道豊田中野線関連)

所在地及び交通案内：中野市豊津字大日影

上信越自動車道中野 IC から北西約 9.7km。

遺跡の立地環境：千曲川左岸に発達した河岸段丘上（標高 320～340m 付近）に立地する。調査地点は、千曲川に強く張り出した段丘上にある。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
24.4.9～10.31	4,307㎡	黒岩 隆 前田一也

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	2	弥生中期後半（栗林式期）
掘立柱建物跡	9	同上
溝跡	5	同上（平地建物跡 3 基含む）
柵跡	2	同上
土坑	322	同上、古墳、平安後期
焼土跡	4	平安後期

千曲川左岸に沿って遺構が並ぶ

弥生時代中期後半のムラ

昨年度調査区の東側（千曲川に沿う一段下の段丘上）を中心に調査した。平成 22 年度中野市教育委員会の試掘調査時に確認された竪穴住居跡を含めた弥生時代中期後半（栗林式期）の集落跡を発見した。

集落跡では、北側から、掘立柱建物跡、竪穴住居跡、平地建物跡、柵跡などの遺構が種類ごとにまとまりを持って、千曲川に沿うように南北に並んでいた。この状況は、同時期の集落を構成する遺構の組み合わせの最小単位を示している可能性がある。一段丘上の昨年度調査区との隣接部分は、土坑埋土に共通性があり、同時期のものが多いと思われるが、遺物が少なく時期が特定できないものもあった。

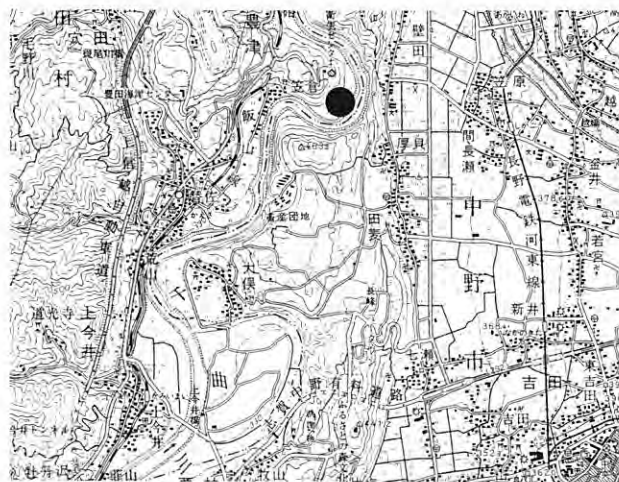


図 3 琵琶島遺跡の位置（1：50,000 中野）

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器	縄文早期・前期・後期、弥生中期後半、古墳前期、平安後期、近世
石器	縄文～弥生（管玉、石皿など）
その他	ガラス小玉（弥生？）、鉄滓（時期不明）

遺構・遺物の特色

今年度調査で特筆すべきは、北陸地方に報告例が多い平地建物跡に類似した溝状の遺構が 3 基検出されたことである。最大径約 5.2～8.2m の規模を持ち、平面形は馬蹄形や円環状を呈する。今後、類例を検討しながら、遺構の性格をさらに考察していくことが必要である。

出土遺物は、弥生時代中期後半（栗林式期）の土器を中心に、縄文時代の土器も出土した。

今後の発掘調査予定

次年度は、発掘調査最終年度となり、上部段丘の調査を通し、下部段丘の遺構とのつながりを捉え、集落域の範囲を確定していく予定である。



図 4 平地建物跡（SD03）完掘状況（南から）径約 8.2m



### あさかわせんじょう ち い せきぐん (3) 浅川扇状地遺跡群

(県道高田若槻線関連)

所在地及び交通案内：長野市桐原・吉田

長野電鉄桐原駅から東約 200m。

遺跡の立地環境：飯綱山を水源とする浅川によって形成された扇状地上に立地する。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
24.4.16 ~ 12.4	5,700㎡	西香子 中野亮一 廣田和穂 栗林幸治 鈴木時夫 大沢泰智

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	49	弥生、古墳、奈良・平安
掘立柱建物跡	1	古代
墓	4	古代～中世
溝跡・流路跡	19	弥生、古代～中世
土坑	200	古墳～中世

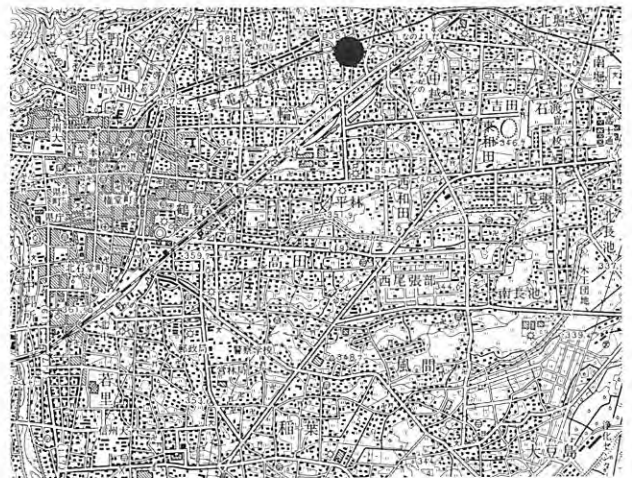


図5 浅川扇状地遺跡群の位置 (1:50,000 長野)

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器	縄文中期、弥生中・後期、古墳前・後期、 古代（土師器、須恵器）、中世
石器・石製品	弥生（石鏃、磨製石斧、打製石斧、剥片ほか）、 古代～中世（砥石ほか）、
金属製品	平安（刀子ほか）、中世（銭貨ほか）
骨	古代～中世（人骨、獣骨）



図6 調査区遠景（南から）左奥が飯綱山

今年度は、事業地の中央付近を東西に横切る長野電鉄線の南側にあたる桐原地区と、北側の吉田地区で調査を行った。

桐原地区の調査では、昨年同様古墳～平安時代の集落跡や中世の墓などの遺構を確認した。また、今年度から着手した吉田地区では弥生～平安時代の集落跡、古代～中世の墓などの遺構を検出した。

#### 弥生時代の集落跡

弥生時代の遺構は、竪穴住居跡5軒、流路跡1条などが検出されている。

中期に所属する遺構は流路跡のみであるが、埋土からは土器片が多く出土しており、調査地周辺に集落が存在していた可能性も考えられる。

後期に所属する住居跡は他の遺構に切られたり、遺構の一部が調査区外となるため、遺構の全体像がはっきりしないものの、出土した土器から吉田式期と箱清水式期の2時期のものと考えられる。

#### 古墳時代の集落跡

古墳時代の遺構は、竪穴住居跡5軒などが確認されている。住居跡は出土した土器などから前期と後期の2時期に分かれる。

前期の住居跡は3軒で、そのうち桐原地区で確認されたSB75とした住居からは、堆積した埋土から拳大の礫と一緒に多くの土器が出土している。出土した土器は、甕や壺などに加えて、小型丸底土器などの儀礼に使われる土器も完形に近い状態で出土し、住居廃棄後に何らかの祭祀的な行為がなされた可能性が考えられる。

後期の住居跡は2軒でいずれも北壁の中央付近にカマドが配置される。遺物は、カマド周辺と床面付近から完形に近い土器が出土しているが、量的には少ない。吉田地区で確認されたSB5009とした住居跡の床面からは、完形に近い壺と、甕の胴部上半が口縁を下にして置かれた状態で出土している。居住時に床面に据え置いて、台などの用途で使用されていた可能性が考えられる。



図7 床面から出土した小形の壺



図9 カマド周辺の土器出土状況 (SB5009)



図8 土器出土状況 (SB75)



図10 土器出土状況 (SB5009)



### 奈良・平安時代の集落跡

奈良・平安時代の遺構は、竪穴住居跡 36 軒、墓 1 基、掘立柱建物跡 1 棟、溝跡などが確認されている。

住居跡は、奈良時代が 3 軒、平安時代が 33 軒で、平安時代の住居跡の多くは前期に帰属する。住居跡は、吉田地区調査地の北端にあたる 6 区とした地区からは確認されなかったが、それ以外の調査地からは粗密の差はあるものの全域で確認されている。検出された住居跡のほとんどは重複していて、カマドの位置が確認できない住居跡も多くあったが、確認することができた住居跡では、東壁に配置されていた 2 軒を除き、すべて北壁中央付近に設けられていた。

墓は吉田地区で確認され、埋土からの遺物の出土がなく、明確な時期は不明であるが、切り合いなどから古代あるいは古代終末期に帰属すると思われる。骨の残りはあまり良くないが、頭を北にして手を伸ばし、足は膝で折り曲げた状態で埋葬されていた。

昨年出土した筆立て付円面硯は、県内初の出土となり注目された。今年度の調査では、その円面



図 11 筆立て付円面硯（右側の破片が今年度出土）



図 12 重複する竪穴住居跡（吉田地区）

硯出土地点の北東側約 50m の溝跡から、新たな破片が出土した。破片に摩耗は認められない。出土地点が離れていることは自然の営為と考え難く、廃棄の仕方を考える上でも貴重な資料となった。

### 中世の墓

中世の遺構としては、墓 3 基が検出されている。いずれも埋土からの遺物の出土がなく、明確な時期は不明であるが、切り合いなどから中世以降の時期に帰属すると思われる。

桐原地区からみつかった墓（SM4）は、隣接する昨年度の調査区で検出された墓と同じように、頭を北にして手や足を折り曲げた姿勢で埋葬されていた。

吉田地区からみつかった墓（SM5001）は、人骨の残りは悪かったものの、長方形の木製の棺に納めて埋葬されていた。人骨は桐原地区同様、頭を北側にして手足を折り曲げた姿勢で埋葬されていた。

### 次年度の調査に向けて

吉田地区の調査では、新たにみつかった弥生時代後期の集落や古墳～平安時代の集落の北限の確認が、また、新たに始まる北長野通りに向けての桐原地区の調査では、古墳～平安時代の集落の広がりや中世の館跡に関係する新たな遺構の発見が期待される。



図 13 人骨出土状況（SM5001）

## (4) かざはり 風張遺跡

(飯橋道路関連)

所在地及び交通案内：飯田市上久堅

天竜川（水神橋）から東側に約 5km。

遺跡の立地環境：玉川左岸の丘陵

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
24.4.10 ~ 8.17	14,680㎡	河西克造 三木雅博 古賀弘一

検出遺構・出土遺物

遺構の種類	数	時期
掘立柱建物跡	13	中世 8、近世 5
竪穴建物跡	1	中世
水溜め遺構	1	中世（推定）
土坑	387	中世～近世（柱穴を含む）
溝跡	24	中世～近世
焼土跡	7	中世 3、近世 4

丘陵上に広がる中世と近世の屋敷地

風張遺跡は、神之峯城跡の北東側、細田川を挟んだ対岸の丘陵に所在する。遺跡が立地する丘陵は、南東から北西方向に緩やかに傾斜し、調査前の調査区内には農業構造改善によって造成された水田が階段状に広がっていた。

調査区内の地形は、尾根部と谷部にわかれる。中世の遺構は尾根部と谷部、近世の遺構は尾根部に分布する。調査区内は緩やかに傾斜するため、中世、近世とも、造成（切土・盛土）により平坦地をつくり出し、そこに遺構が構築されていた。なお、近世遺構のなかには、中世遺構に近接もしくは重複するものがある。これらの遺構は、中世段階に形成された平坦地を利用して構築されたと推測される。

中世の掘立柱建物跡は、桁行が 3 間もしくは 4 間、梁行が 1 間もしくは 2 間と比較的小規模で、

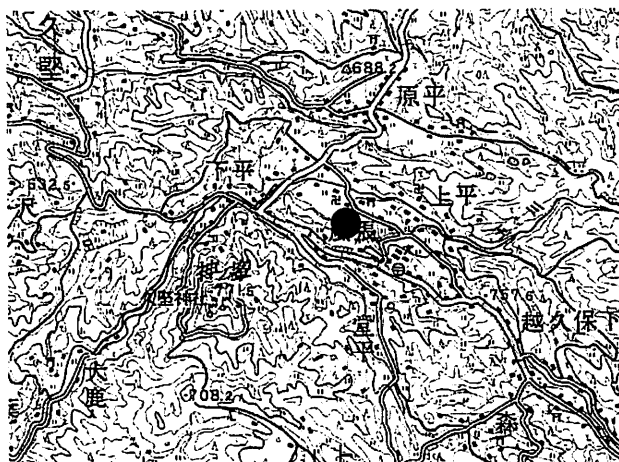


図 14 風張遺跡の位置（1：50,000 時又）

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器	平安（坏）、中世（かわらけ等）、近世以降（碗・皿）
石器	縄文（打製石斧、石鏃）
青銅製品	近世（煙管、銭貨）
木製品	木杵、木杭

建物の内部に焼土跡が確認されたものがある。建物の南東側の斜面上方には、溝跡がし字状に巡る。これは斜面上方から流下する水を排水し、建物への浸水を避けるためにつくられたものと推測される。同様な遺構は、飯橋道路建設関連で調査した飯田市千代の井戸端遺跡（16 世紀の屋敷地）でも確認されている。なお、掘立柱建物跡の柱穴からは 15 世紀後半～16 世紀初頭の瀬戸大窯製品が出土しており、当該期もしくはそれ以降に構築されたと推測される。さらに、調査区の北西側では、水溜め遺構（SK392）が確認された。SK392 は方形の平面形を呈する土坑で、底部に板材（木杵）が設置され、その板材を固定するために木杭が打設されていた（図 16）。SK392 から南西に溝が走行しており、調査区外まで延びていると推定される。高低差から判断して、南西側の調査区外から引水し、木杵内に水を溜めたと推定される。これにより、丘陵上で生活を営む人々の水を確保する方法を垣間見ることができた。なお、SK392 の埋土からは遺物は出土しなかったが、接続する溝跡は出土遺物から 16 世紀以降と推測されるため、同時期に帰属するものと考えている。





図 15 風張遺跡 調査区全景

近世の遺構では、掘立柱建物跡、溝跡、土坑等があり、遺構は北東側の尾根部と南西側の尾根部に集中する。北東側の尾根部で確認された掘立柱建物跡（ST01）は4間×5間で、中世の掘立柱建物跡より大規模である。建物内部では囲炉裏と推定される焼土跡が確認されたほか、間取りを想定できる柱穴等がみついている。建物の規模から、母屋と推定される。ST01の柱穴からは17世紀の陶磁器が出土しており、本遺構は17世紀以降に構築されたものと推測される。

飯田市域に現存する近世民家はすべて礎石建物である。したがって、風張遺跡で確認された近世の掘立柱建物跡は、礎石建物以前の建物構造を知る上で貴重な資料となろう。



図 16 SK392（木杵）の精査風景

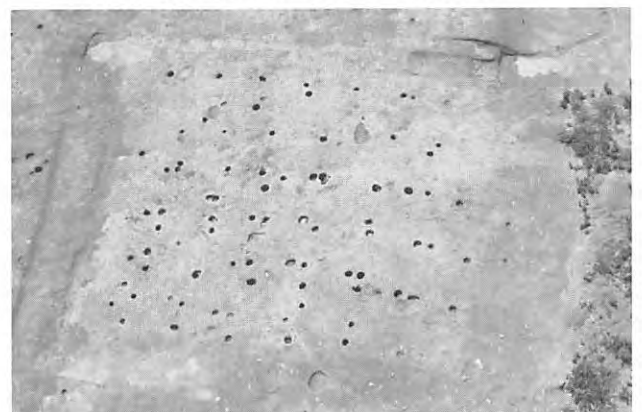


図 17 近世の掘立柱建物跡（ST01）全景

## (5) 神之峯城跡

(飯喬道路関連)

所在地及び交通案内：飯田市上久堅

天竜川（水神橋）から東側に約 5km。

遺跡の立地環境：玉川左岸の独立丘陵

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
24.8.17 ~ 12.20	15,199㎡	河西克造 市川隆之 三木雅博 古賀弘一

検出遺構

遺構の種類	数	時期
礎石建物跡	1	中世
掘立柱建物跡	1	近世
墓	2	中世
土坑	113	中世 30、近世 83
溝跡	11	中世 6、近世 5
焼土跡	1	中世
柵列跡	1	近世
石列跡	4	近世

知久氏の本城（山城）を掘る

神之峯城跡は、室町～戦国時代に下伊那の天竜川左岸を治めた在地国人の知久氏の本城である。地元研究者によると、16 世紀初頭頃には知久氏が神之峯城に入城している。天文 23 年（1532 年）の武田信玄の攻撃で落城し（「勝山記」、その後の天正 10 年（1582 年）に再興される（「知久文書」）が、天正 12 年に廃城となった。

調査対象地は独立丘陵（神之峯）の頂部から山腹に延びる尾根と谷が複雑に入り組み、調査前の地表面観察では、曲輪と想定される数多くの平坦地が確認された。

中世後半（15・16 世紀）の遺構では、礎石建物跡と墓坑が注目される（図 21）。礎石建物跡は、



図 18 神之峯城跡の位置（1：50,000 時又）

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器	平安（壺）、中世（青磁碗、染付、瀬戸美濃産天目茶碗、丸皿等）
石製品	中世（硯）
青銅製品	中世（銭貨）、近世（銭貨）
鉄製品	近世（釘）

谷に 3m を超える盛土をして、平坦地を造成し、そこに構築されていた。建物跡の規模は、南北 2 間以上、東西 3 間で、南側調査区外まで延びている。礎石建物跡の北西側には雨落ち溝がある。礎石は、直径約 70cm の円形の掘り方（礎石設置穴）を掘削し、土を充填した後に据え置かれていた。礎石建物跡を覆う土（6 層）からは、15 世紀後半～16 世紀初頭の古瀬戸製品もしくは瀬戸大窯製品が出土した。遺物分布域は礎石建物の範囲とほぼ一致することと、遺物に時期幅があまりないことから、遺物の年代は礎石建物の時期に近いもの



図 19 神之峯城跡 調査風景（写真左側に本丸）





図20 調査区 遠景

と考えている。また、6層からは炭化材が出土し、さらに礎石建物跡のなかには赤化（被熱）した状況が確認された。この礎石建物跡は、知久氏が神之峯城在城時に建立したと言われている寺院（知久十八ヶ寺）のひとつ「法心院」<sup>ほうしんいん</sup>の推定地に近い場所から見つかっていることから、法心院の建物の可能性が高い。なお、礎石建物跡の背後（尾根側）にある上方の平坦地からは、10枚の銭貨が副葬された中世の墓が、人骨とともに確認された。法心院に伴う墓地であった可能性がある

近世後半（18・19世紀）の遺構として、中世後半の礎石建物跡を埋め立てた後、石列跡や溝跡で区画された屋敷地がある。谷の北西側には、尾根を削平して形成した平坦地があり、そこでも当該期の掘立柱建物跡や土坑等が確認されている。

一方、調査前の地表面観察において、尾根上で確認された平坦地は、調査の結果、その多くが近世後半以降の造成によるものと考えられた。ただし、平坦地のなかには、近世以降の造成土の下層で平坦地の裾をめぐる中世の溝跡が確認されたも



図21 礎石建物跡 全景

のがある。この溝跡が確認された場所は、中世段階に平坦地が形成されていたものと推測される。

今まで、神之峯城跡が本格的に発掘調査されたことはなく、今回が初めての調査となる。今回と来年度の調査成果により、神之峯城の実像がさらに明らかにされよう。

## かぶとやま (6) 兜山遺跡

(中部横断自動車道関連)

所在地及び交通案内：佐久市大沢

国道 141 号線本新町交差点から西約 2.2km

遺跡の立地環境：八ヶ岳山麓から東に伸びる低丘陵の南側斜面、標高は 736m 前後を測る。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
24.5.15 ～ 8.28	30㎡	若林卓 宮村誠二

検出遺構

遺構の種類	数	時期
古墳	1	古墳

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・石器・鉄製品	縄文（土器・打製石斧・石鏃） 古墳～古代（鉄鏃・刀子） 平安（土師器・黒色土器） 中世（青磁碗片）

### 横穴式石室をもつ古墳

兜山遺跡は佐久平の千曲川左岸、八ヶ岳山麓の東方末端の南東斜面に立地する。尾根裾との比高差はおよそ 30m を測り、眼下には大沢川の扇状地が広がっている。

本遺跡では、平成 20 年度に当センターが実施した発掘調査の際、遺跡の一角に大型の石や拳大～人頭大の川原石が多量に積まれているのが確認された。昨年度、その隣接地を調査したところ石積みの周囲で「掘り方」や「裏込め」が見つかり、古墳の横穴式石室である可能性が高まった。

本年度の調査はこの成果をうけて実施したもので、石積みが横穴式石室であることが判明するとともに、石室に関する多くの所見が得られた。

横穴式石室は丘陵の斜面をコの字形に掘り込み、斜面下方に敷土をした整地面上に構築されている。

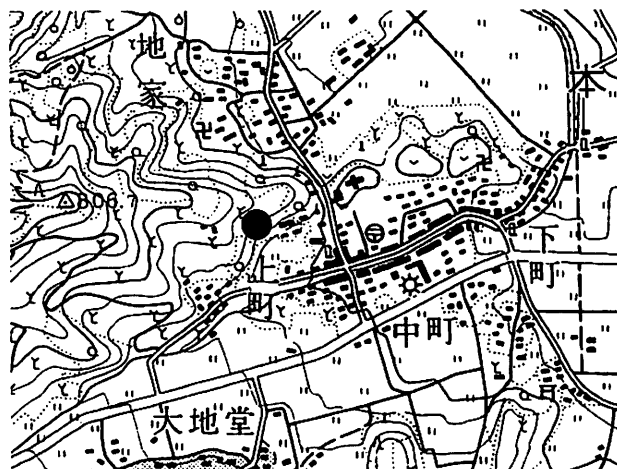


図 22 兜山遺跡の位置（1：50,000 白田）

構築面の標高は 736m 前後である。石室壁体の外側、掘り方の内部には多量の川原石を用いて裏込めが施されている。川原石は大沢川や千曲川など遺跡の近くで採取できるが、残っていたものだけでも 4 トン以上あった。

横穴式石室は南に開口する。すでに天井石は崩落し、壁体の石材も奥壁が 1 段、側壁が最大 3 段しか残存しない。

有袖式で、側壁からせり出すように立柱状の石（立柱石）を立てて玄門とし、内部空間を玄室と羨道に区分する構造である。比較的残りの良い左側壁の形状から石室は平面長方形の玄室に立柱石を挟んで幅にほとんど差のない羨道が取り付くものと推定される。玄室と羨道の境の床面には柵石が設置されていた。

石室の規模は残存長 3.9m、玄室長 2.3m、玄室幅 1.3m、羨道残存長 1.6m を測る。残存高は最も高い奥壁でも石室の床面から 1.1m 程度である。天井高は不明だが、石室内に本来は側壁を構成していたとみられる大ぶりの石材が数個体認められ、壁体が残存高よりも高かったことがうかがえる。

なお、石室の周囲にあった天井石とみられる石材は、残存する石室上面の幅に対してやや短小な印象を受ける。壁体の上位では石材を持ち送り気味に積み上げて天井石を架けたものと推定される。壁体には安山岩や凝灰岩が使用されていた。

玄室の床面は 20 ～ 25cm の石を密に敷き詰めた上に 5 ～ 7cm 程度の円礫が敷かれている。羨道にも 10cm 前後の石敷きが部分的に残るが、玄室とは構造が大きく異なる。

### 再利用された石室

石室内から出土した遺物には、鉄鏃や刀子、土師器坏、黒色土器坏・椀、青磁碗片などがあり、人骨や歯も出土している。遺物は攪乱されているとみられ、土器には裏返ったものも多い。人骨も埋葬状態を保っていないことが確かめられた。

土師器や黒色土器は平安時代に位置づけられるもので完形に復元できた個体が目立つことから混入品とは考え難く、意図的に石室内に入れられた可能性が高い。この時期に石室が再利用されたと判断できる。

佐久地域では本例と同じく横穴式石室から平安時代の土師器や黒色土器が出土した事例が他にも確認されており、埋葬を含め何らかの祭祀がおこなわれた可能性が指摘されている。たとえば、佐久市岩村田の東一本柳古墳では横穴式石室の本来の床面とは別にその上位で堅緻な面が検出されており、平安時代の追葬面と捉えられている。

本墳ではそうした構造は認められないが、出土人骨の一部は放射性炭素年代測定の結果、13～14世紀に相当する測定値が出ており、横穴式石室が後世に埋葬の場として利用された可能性がある。



図 23 横穴式石室の裏込め



図 24 人骨の出土状況



図 25 兜山遺跡遠景



### 千曲川左岸域での貴重な成果

今回の調査では横穴式石室の構造や規模、副葬品などが明らかになり、再利用に関わる資料が得られた。本墳は、立柱石を有する石室の構造から現在のところ、7世紀後半～8世紀頃に築造されたと考えている。

この時期、佐久では山麓部に小規模な古墳が密集して造られるようになる。本遺跡のある尾根一帯にもかつて八幡一郎氏の調査報告『南佐久郡の考古学的調査』（八幡 1928）に取り上げられた一丁田古墳をはじめ、横穴式石室を有する古墳が多数存在したことが知られている。『南佐久郡誌』（南佐久郡役所 1919）によれば、兜山から一丁田にかけて十数基もの古墳が存在したとされている。

しかし、これらの古墳は多くが耕作地の造成などによって破壊されたと見られ、発掘調査されたものも少ないため、実体が明らかにされていない。今回の調査成果はその解明に大きく寄与するものであり、古墳の調査例が少ない佐久平の千曲川左岸域における成果としても貴重である。



図 26 鉄鏝



図 27 平安時代の土器



図 28 兜山古墳全景

## ひがしやま (7) 東山遺跡

(中部横断自動車道関連)

所在地及び交通案内：佐久市伴野。国道 142 号線  
佐久南 I.C 入口から南西へ約 0.4km。

遺跡の立地環境：八ヶ岳北麓の小規模な扇状地上。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
24.10.22 ~ 11.6	450㎡	藤原直人 伊藤友久 栗林幸治 曳地隆元

検出遺構

遺構の種類	数	時期
溝跡	1	中世、不明
土坑	11	不明

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器	土師器

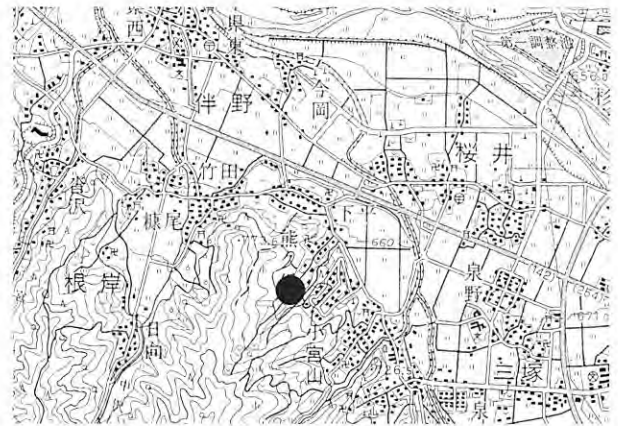


図 29 東山遺跡の位置 (1 : 50,000 小諸)

市道下調査で見つかった溝跡

平成 20 年度の確認調査および平成 21 年度の調査により、中世以降と思われる溝跡 1 条 (SD01) と土坑等が検出された。

本年の調査区は、全長約 40m の市道下である。検出された遺構は溝跡 (SD01) の続きと 210cm × 120cm の大型の土坑 1 基、直径約 30cm のやや小型の土坑 10 基である。いずれも埋土からは遺物等は出土していない。耕作土中から土師器数点が検出された。

## おおさわ や し き (8) 大沢屋敷遺跡

(中部横断自動車道関連)

所在地及び交通案内：佐久市大沢。国道 141 号線本新町交差点から西約 1.3km。

遺跡の立地環境：千曲川左岸、大沢川が形成した扇状地上に立地。標高 704m。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
24.8.28 ~ 9.21	582㎡	鶴田典昭 市川桂子

検出遺構・出土遺物

遺構の種類	数	時期
土坑	4	縄文後期以降
遺物の種類	時期・内容	
土器・石器	縄文 (土器・剥片)	

扇状地上に残された縄文時代後期の土坑群  
大沢屋敷遺跡は大沢川が形成した扇状地上に立



図 30 土坑全景

地する。調査対象地は県道百沢臼田線と大沢川の間に位置する。平成 23 年度の調査で、縄文時代後期の遺物包含層と円形に配列する土坑群などが確認された。平成 24 年度は、土坑群の西側に隣接する地を調査した (図 30)。その結果土坑 4 基が検出され、縄文時代後期の土器片と黒曜石剥片が出土した。土坑群は昨年確認されたものとの関連が想定される。大沢川付近では、大沢川による浸食により低くなっており、遺物包含層、遺構は確認できなかった。

## (9) てらくぼ 寺久保遺跡

(中部横断自動車道関連)

所在地及び交通案内：佐久市臼田大字寺久保。

国道 141 号線伊勢宮交差点から北西約 1km

遺跡の立地環境：千曲川左岸、八ヶ岳北麓から東に

延びる尾根の南斜面に立地。標高約 745 ～ 765m。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
24.7.17 ～ 11.22	10,000㎡	藤原直人 伊藤友久 栗林幸治 曳地隆元

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	1	平安

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・石器	縄文、平安（土師器、須恵器、砥石）

山間部で発見された平安時代の竪穴住居跡

寺久保遺跡は、旧臼田町の遺跡詳細分布調査で縄文時代中期、古墳時代の遺跡として登録されている。今までに調査事例がないため、遺跡の規模や密度などの情報を得るためトレンチ掘削を実施した。

その結果、調査区北部の比較的傾斜の緩い地点で遺構と考えられる落込みを検出したため、その



図 31 寺久保遺跡・庚申古墳の位置（1：50,000 小諸）

一帯について面的な調査を実施した。その結果、平安時代後期の一辺約 3m の方形の竪穴住居跡を検出した。この住居は、傾斜地につくられていたため南壁の残存状況は深さ約 30cm ほどで比較的良好であったが、北壁や床面の一部が後世の削平により消失していた。カマドは東壁にある。その周辺からは土師器の坏や須恵器の甕の破片がまわって出土している。

来年度調査予定地では傾斜の比較的緩い地区がみられることから、同時期の竪穴住居跡が検出される可能性が考えられる。

平安時代の後期、佐久平南部の西山地区では、山間部の小規模集落（「山棲み集落」）が見つかってきている。律令社会の中でこうした「山棲み集落」がどのような原因で発生したのか、佐久地方だけでなく、県内の他地域や他県の様相とも比較し、律令社会の中での「山棲み集落」の位置付けを解明しなければならない。



図 32 調査風景



図 33 竪穴住居跡



## (10) 庚申古墳

(中部横断自動車道関連)

所在地及び交通案内：佐久市臼田字庚申

国道 141 号線伊勢宮交差点から西約 1km。

遺跡の立地環境：千曲川左岸、八ヶ岳北麓から東に延びる尾根上、標高約 765m を測る。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
24.7.17 ~ 11.22	200㎡	藤原直人 伊藤友久 栗林幸治 曳地隆元

検出遺構・出土遺物

遺構の種類	数	時期
塚	1	不明
遺物の種類	時期・内容	
土器 陶器	土師器片（平安）、陶器片（近現代）	



図 34 発掘調査風景

近代ごろの信仰塚（庚申古墳）

本調査では、古墳の特徴である埋葬施設や周溝などはみられなかった。盛土は大きく 3 層に分かれる。1 層は表土層（腐葉土）。2 層（暗黄褐色土）では、平安時代後期の土器片や近現代の陶磁器片が出土している。3 層は盛土層（黒色土）であるが、遺物の出土は見られなかった。また、2 層の下部では小礫が置かれた状態で検出されている。小礫の状態から盛土は後世に削平などを受けておらず構築時の状況を留めている可能性が高いと考えられる。

## (11) 馬越下遺跡

(中部横断自動車道関連)

所在地及び交通案内：佐久穂町千代里

国道 141 号清水交差点から西南西へ約 1km

遺跡の立地環境：八ヶ岳から東に伸びる丘陵末端部の段丘上。標高 850~860m。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
24.4.9 ~ 4.27	230㎡	若林卓 宮村誠二

検出遺構

なし

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
陶器	中世（古瀬戸壺）

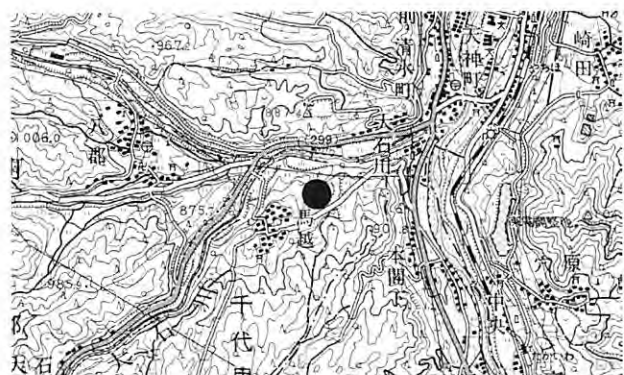


図 35 馬越下遺跡の位置（1：50,000 蓼科山）

本年度の調査対象は、中部横断道用地南西部に位置する小範囲の残件部分であるが、遺構は検出されなかった。遺物も表土から中世陶器片が 1 点出土したのみである。

平成 22 年度の発掘調査では、遺跡西側の尾根状部から続く緩斜面部で平安時代の住居群を確認したが、東側の谷状部にあたる今回の発掘地点は集落の居住域から外れていると考えられる。

一方、中世の陶器が検出されたことにより、本遺跡が中世の内容を含むことがわかった。今回発掘地点の西方ないし南方に中世の集落跡等が存在する可能性があろう。

### Ⅲ 整理作業の概要

遺跡名	所在地	事業名	整理の内容（作業）	整理中の主な成果
せんた 千田	中野市	千曲川替佐・柳沢築堤	報告書刊行	本文参照
かわくぼ みやおき 川久保・宮沖			報告書刊行	
さわだ なべつち 沢田鍋土ほか	中野市	新幹線	報告書刊行	
ちかつ 近津ほか	佐久市 佐久穂町	中部横断自動車道	報告書刊行	本文参照
にしちかつ 西近津			遺構図修正、デジタルトレース、 遺物選別・接合、復元、実測 出土骨鑑定、金属器	
すぼうばた 周防畑			遺構図修正、デジタルトレース、 遺物選別・接合・復元・実測	
もりたいら 森平ほか			遺構図修正、デジタルトレース、 遺物選別・接合、復元、実測、 トレース	
かよとやま 兜山			遺構図修正、デジタルトレース、 遺物選別	
だい さか 台ヶ坂ほか			遺構図修正、デジタルトレース、 遺物選別・接合、復元、実測	台ヶ坂遺跡、上滝・中滝・下滝遺跡、家 浦遺跡を対象に実施した。今年度は、主 に記録類の整理を進め、次年度以降に継 続する予定である。
おく ひかげ こやまてらくぼ 奥日影・小山寺窪			遺構図修正、デジタルトレース、 遺物選別・接合・計測・台帳作 成	本文参照
たか お まみずりぐぼ 高尾 A・満り久保			遺構図修正、デジタルトレス、 遺物選別・接合、復元、実測	
おあみちした しみずりが 大道下・清水東	中野市	野尻バイパス	報告書刊行	大道下遺跡では、土坑 2 基と縄文土器片 や平安時代の土師器・須恵器片が検出さ れ、各時期の分布域や集落域の範囲が確 認された。清水東遺跡は、今回の調査地 点が水際の環境を示していることが分か り、遺跡の中心は北側の微高地にあると 予想された。

## (1) 千田遺跡、川久保・宮沖遺跡

(千曲川替佐・柳沢築堤関連)

標記遺跡は中野市(旧豊田村)豊津に所在する。JR 飯山線替佐駅付近から千曲川の間に展開し、斑尾川右岸側が千田遺跡、左岸側が替佐遺跡群川久保・宮沖遺跡である。平成 14～19 年度に発掘調査した。今年度、遺物については実測・拓本作成、トレース、図版組み、観察表作成、及び撮影業務委託を行った。遺構については、遺構図作成、トレース、図版組みを行った。遺構・遺物図ともデータ化し、写真、本文原稿とともに編集・印刷製本業務委託を経て、事業開始から 11 年目に報告書が刊行され、業務を完了した。

千田遺跡 50,000㎡近い調査範囲の中で、縄文時代から中・近世まで地点によって時期を異にした多様な内容がある。最大の成果は、縄文時代中期勝坂式古段階から加曽利 E Ⅲ式にかけて、住居跡 50 軒を超える、外径約 90m の大規模な環状集落の内容を明らかにしたことであろう。

中期後葉期の竪穴住居跡には、ベッド状遺構やコの字形炉など、新潟県に多い施設を備えたものが多い。中期末葉には住居跡の減少とともに配石遺構が築造され、生活拠点は千曲川上流側へ移動して大規模な廃棄場が形成されている。

中期中葉期の土器は火焰型・王冠型土器を含む越後系が主体を占め、新巻類型・焼町土器、勝坂式、大木 7a・8b 式、浅鉢の主体を占める北陸系土器が見られる。中期後葉期は立体的な渦巻き装飾をもつ中・小形土器の桁倉式土器と、平縁の大形土器の圧痕隆帯文土器がセットになる。

桁倉式土器は新潟県よりバラエティーが豊富で、長野県北部が分布の中核と判明した。中期末葉期には加曽利 E 式系土器を主体に、串田新式、沖ノ原式、大木 10 式など他地域の土器が見られる。

土製品・石製品は多数の土製円板、ミニチュア土器、希少な三角罫形土製品・石製品など多彩である。中期土偶 200 点以上の出土は、1 遺跡出土数としては県内で断然の最多数、全国的にも相当上位に位置する。石器は 7,000 点を超え、石鏃、スクレイパー、打製石斧などが多数を占める。事

例が少ない石皿の未製品、多数の敲打痕が残る礫石器の存在も注目される。これらは大河川に面した集落の、道具作りの拠点という一面を物語る。川久保・宮沖遺跡 遺跡は斑尾川左岸の低位段丘を中心に立地する。遺構は、弥生時代中期から近世の各時代に及び、断続的な利用ながら長期にわたる。弥生時代中期、古墳時代前期、中世、近世には水田跡を中心とする耕作地が検出された。一方、弥生時代後期、古墳時代前期、同後期～奈良時代、中世、近世には竪穴住居跡や掘立柱建物跡などがある。

調査成果の一つに、千曲川、斑尾川洪水の時代的变化が垣間見えたことがある。千曲川近くまで居住遺構が分布して洪水堆積土層が認められず、洪水が少ないと思われたのが弥生時代中期、古墳時代後期～奈良時代、平安時代後期～中世前期、中世末～近世前半である。

一方、顕著な洪水土層の堆積や浸食地形の形成、川近くに居住遺構が認められないため洪水が多発したと思われるのが弥生時代後期初頭、古墳時代前期、中世の中頃、江戸時代後半である。

古墳時代前期には遺跡の広範囲に洪水土の堆積が認められ、斑尾川の土石流堆積も認められた。弥生時代後期初頭、平安時代には斑尾川・千曲川合流地点付近に洪水時に形成されたと思われる谷状の浸食地形がある。

もう一つの成果として他地域との交流が捉えられた。弥生時代後期初頭には東北地方の土器が出土し、東北地方からの人の移動の可能性が知られた。古墳時代前期には本遺跡に東海・畿内地域の土器を模倣した土器が現れ、交流の活発化が予想される。

この時期、新潟県信濃川流域に古墳が形成されていることを考慮すれば、千曲川・信濃川沿いの交流も推測される。奈良時代には北陸道、東山道が整備されたため信濃川沿いの交流は低調となるが、平安時代には新潟県と類似の竪穴住居跡と土器が認められ、東信地域の土器が新潟県信濃川沿いで出土することから、川を利用した交流の復活が捉えられた。



## (2) 沢田鍋土遺跡ほか

(北陸新幹線関連)

今年度は、沢田鍋土遺跡、立ヶ花表遺跡、立ヶ花城跡の整理作業を実施した。上記3遺跡は中野市立ヶ花に所在し、高丘丘陵古窯址群の一角に位置する。沢田鍋土、立ヶ花表遺跡では、奈良時代を中心とした遺構・遺物が検出されている。立ヶ花城跡の調査では遺構、遺物が確認されなかった。

平成25年3月に上記3遺跡の報告書を刊行する。

**沢田鍋土遺跡** 立ヶ花表遺跡1号窯跡と同時期(8世紀前半)の工人集落の一部を調査した。7棟のうち6棟の竪穴住居跡は、斜面上方に排水施設と考えられる弧状の溝を廻らせたもので、オンドル状の施設をもつもの(SB103)も確認された。竪穴住居跡(工房跡)からは、隣接する清水山窯跡と類似する隆帯を持つ須恵器碗や、「井」の窠書須恵器が出土した。土器焼成遺構も確認されており、須恵器・土師器生産に関わる工人集落であったと評価した。

この他、旧石器時代の石器、縄文時代・平安時代・中世の粘土採掘跡などが確認されている。縄文時代の粘土採掘跡は堀之内1式期のものであり、採掘は約430㎡の範囲にわたっている。長野県内では、希少な検出例である。

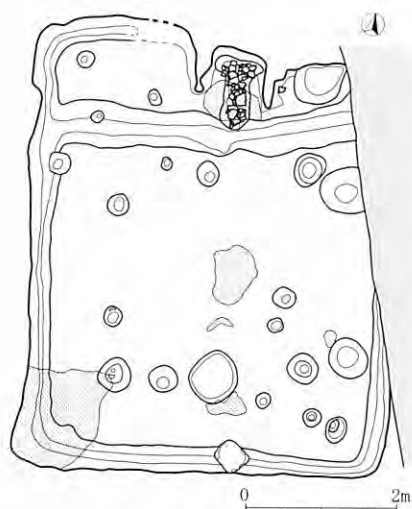


図36 沢田鍋土遺跡 SB103

**立ヶ花表遺跡** 立ヶ花表遺跡では、新発見の須恵器窯跡3基を調査した。操業は8世紀前半と8世紀後半以降の2時期に分けられる。3基とも、焼成部と燃焼部に段差がある特殊な構造の窯跡である。1号窯跡は大甕を主体的に焼成した8世紀前半の窯である。

出土遺物では、「多井?」の窠書須恵器などが出土している。

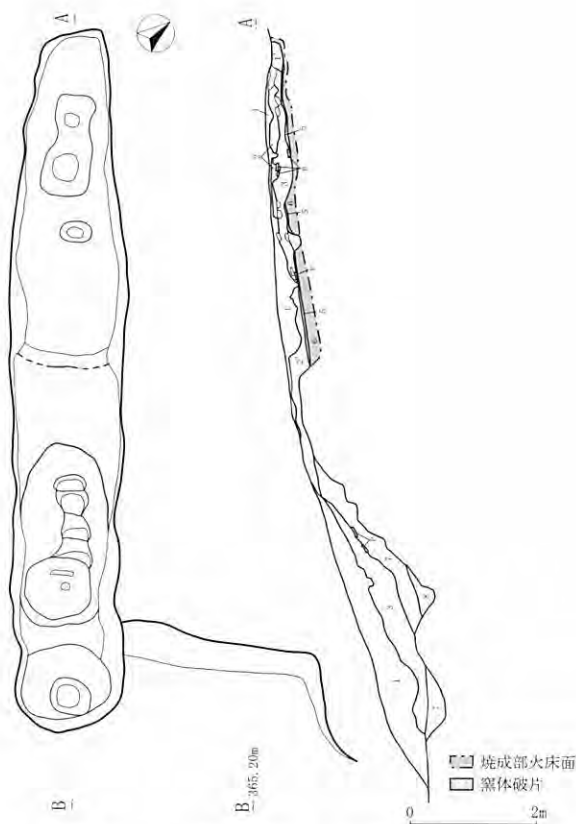


図37 立ヶ花表遺跡 1号窯跡 (SY01)



図38 立ヶ花表遺跡 窠書き須恵器

### (3) 近津遺跡群ほか

(中部横断自動車道関連)

鎌田原遺跡、近津遺跡群、和田原遺跡群は平成22年度から整理作業を進めてきていて、今年度報告書を刊行した。

遺跡は小諸市と佐久市境にあり、この地域に特有の「田切り地形」が発達した火砕流台地の縁辺部に立地する遺跡で、古墳時代前期を中心とした小規模な集落である。

**鎌田原遺跡・近津遺跡群** 湧玉川の田切り谷南側の台地上に広がる。鎌田原遺跡では台地縁辺部からやや内側に入った南北100m程の範囲から古墳時代前期後半の住居跡が8軒検出された。住居跡は重複することなく、数軒を単位として3ヶ所にまとまりを持つ。出土土器は弥生時代箱清水系譜の土器がほとんど残存せず、小型丸底土器や柱状脚の高坏が認められる。古墳時代前期後半の短期間に営まれた小規模集落と考えられる。

近津遺跡群は鎌田原遺跡と同じ台地上で隣接する遺跡で、鎌田原遺跡の調査地点とは800m程離れている。調査は湧玉川に沿った台地縁辺部を延長700mにわたって実施し、古墳時代前期前半の住居跡50軒などが検出された。調査範囲では埋没谷が浸食する高位平坦面、田切り谷に開放する

低位平坦面、田切り谷に向かう緩斜面など起伏に富んだ地形面が確認され、それぞれの地形面から10軒前後の古墳時代前期の住居跡などが検出された。出土土器は弥生時代箱清水系譜の土器を主体とし、ハケ調整甕・小型高坏・小型器台など新たな土器も組成している。住居跡の主軸方向の類似性などから、4・5軒程度からなる古墳時代前期前半の小規模集落が各地形面に隣接して存在していたと考えられる。

**和田原遺跡群** 湧玉川の田切り谷北側で、鎌田原遺跡や近津遺跡群の対岸の台地上に立地する。調査では奈良時代の住居跡1軒が検出されたのみであったが、遺跡内では古墳時代前期の小規模集落が2地点で確認されている。

**佐久平北部の古墳時代前期** 佐久平北部では弥生時代中期に集落形成が始まり、後期になると佐久平駅周辺の火砕流台地末端部付近に大規模集落が密集してみられるようになる(図の■)。古墳時代前期になるとこの大規模集落は小規模・分散化していき、今まで遺跡のつくられてこなかった田切り台地の縁辺部や、河川の低位段丘面などに新たな集落を形成していくようになる(図の●)。

今回の3遺跡の調査はこの事象を改めて追認することができた。



図39 佐久平北部の弥生後期・古墳前期の遺跡

#### (4) 西近津遺跡群

(中部横断自動車道関連)

**今年度の整理** 21年度から整理作業を実施している。遺物は土器接合・復元、土器・石器・石製品の実測作業を進めた。遺構は図面修正とデジタルトレースを継続している。出土骨の鑑定に指導者を招聘し、金属器は保存処理を業者委託している。以下に、今年度得られた成果を紹介する。

**骨角器の製作** 当遺跡群では弥生時代から中世鎌倉時代まで800点もの動物骨が出土している。時代別に動物の種類をみると、弥生時代後期はシカとイノシシ、古墳時代以降はウシとウマの占める割合が圧倒的である。

弥生時代後期の竪穴住居跡から骨製ヤスと半製品、加工痕のあるシカの骨がみつまっている。骨製ヤスは細長く、刺突部と茎部に段を持つ。半製品は細長い剥片で、先端部に研磨痕がある。完成品の種名部位は不明、半製品はシカ中足骨を用いている。

またシカの頭骨は縦割りにして、角を角座から削り取っている。角座には刃痕がよく残る。切断された角も複数片ある。こうした資料から、骨角器製作に関わる住居である可能性を考えている。



図40 骨製ヤス（手前左）と加工・解体痕のある骨群（弥生時代後期 SB036 住居出土）ヤスの長さ 7.0cm

**紡織関連資料** 弥生時代から中世まで、紡織に関わる資料の出土が一定量ある。紡織の工程順にみると、芋引き金7点（原料の麻や苧から繊維を引き出す道具）や紡錘車49点（繊維から糸を紡ぐ道具）、針2点（布や革を縫製する道具）である。

芋引き金は鉄製で、7・8・10世紀代の住居跡と中世溝跡から出土する。紡錘車の素材は3種類あり、土製13点の大半は弥生後期の住居跡出土で、一部6・7世紀の住居跡からも出土する。石製26点は6・7・8世紀の住居出土が多い。また鉄製10点は8・9世紀の住居跡中心に出土する。こうした素材の変遷は長野県下のこれまでの調査成果と矛盾しない。

針は鉄製で、中世の溝跡から2点みつまっている。大形品のため、縫製する対象物が何であるか検討が必要である。

弥生時代の骨角器製作は、集落内における生業の一端を明らかにする要素といえる。また紡織関連資料は、集落内の生業という意味合いと、律令期以後の地域単位の生産への結び付きを考察できる資料である。こうした資料から大規模な集落遺跡の消費地としての位置づけと、供給地としての役割も考えていきたい。

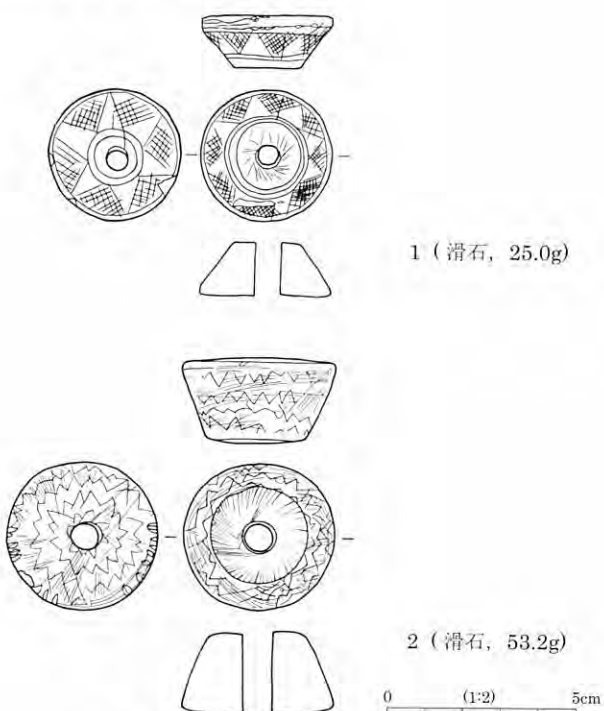


図41 文様を線刻した石製紡錘車（7世紀代 SB6021 住居出土）



## (5) 周防畑遺跡群

(中部横断自動車道関連)

これまでの経緯 周防畑遺跡群は、北東―南西方向の遺跡範囲が3,000mを超える長大な遺跡群である。今回はJR長野新幹線・小海線の佐久平駅の西方約500mの地点を、平成18、19、21年度の3回にわたって計43,250㎡を調査し、弥生時代の竪穴住居跡63軒、墓跡25基、古代の竪穴住居跡41軒、掘立柱建物跡11棟ほかを検出した。

整理作業は、昨年度の平成23年度より開始し、昨年度は遺物の分類、登録、接合、復元、一部実測までと、遺構図の点検、修正、一部2次原図の作成までを行い、今年度は昨年度から続く遺物実測と2次原図作成を終えた後、遺物実測図の手トレースと遺物図のデジタルトレースを進め、遺物の化学分析や保存処理、写真撮影を業者に委託して行った。報告書は平成25年度刊行予定である。

遺跡の概要 調査区は南北に細長いため、便宜的に市道や鉄道、用水路を境にして1～7区に分け(『年報』23)、更に5区東側の平成21年度調査区を8区とした。このうち、2・3区が弥生時代後期と古代の集落跡、5・8区が弥生時代中・後期の集落跡と墓域である。その他の調査区は、耕作土下が旧流路と見られる低湿地であり、遺構は検出されなかった。

弥生時代 出土した遺物のうち、5区の墓坑SK5067出土の三連銅釦と、遺構外ながら円形周溝墓SM507周溝直近から出土したヒスイ製勾玉は注目される。特にヒスイ製勾玉は長さ5.5cm、幅3.0cm、厚さ2.0cm、重さ606gと国内でも最大級のものであり、さらに隣接するSB522床面からも大形の土製勾玉が出土している。隣接する円形周溝墓と竪穴住居跡で、大形のヒスイ製勾玉と同様に大形の土製勾玉が出土することは興味深く、両者の関係が今後の検討課題である。

古代 2区北部の掘立柱建物群とその南端に位置する2つの土坑SK59とSK60が注目される。SK59・60は2.2mの間隔で東西に並ぶ各直径100cm、65cmの円形の土坑である。SK59からは灰釉陶器碗2、土師器碗3、黒色土器高台付碗1

と灰釉陶器輪花皿1の計7個体、SK60からは灰釉陶器輪花碗3、輪花皿1(SK59のものと接合)と土師器碗4の計8個体が完形または完形に近い状態で出土しているが、SK59の灰釉陶器碗1とSK60の土師器碗2には灯芯油痕があり、SK60の灰釉陶器4はすべて輪花形で、そのうちの輪花碗2個の底面には「本」の墨書があるなどの特徴があり、祭祀との関わりが想定される。

そのほかに注目される遺物としては、竪穴住居跡SB77出土の土師器鉄鉢形土器、SB80出土の葉壺に使用されたと思われる須恵器短頸壺、3区遺構外出土の獣脚風字硯、川原寺式軒丸瓦などがある。川原寺式軒丸瓦は、以前にも本遺跡群中の別地点で出土しているが、獣脚風字硯は国内初の出土である。

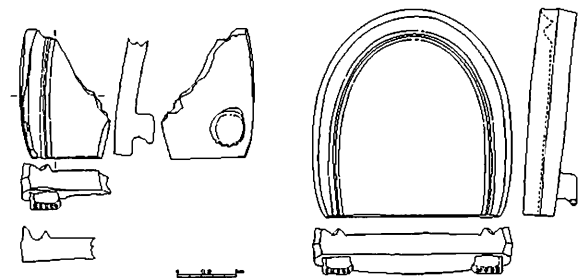


図42 獣脚風字硯実測図(左)と推定復元図(右)

獣脚風字硯は佐久郡衙との、軒丸瓦や鉄鉢形土器は、佐久郡衙付属寺院との関係が窺われる。

但し、硯の出土は獣脚風字硯1点のみであり、墨書土器、灰釉陶器などの施釉陶器もそう多くはない。佐久郡衙関連の集落としても郡司クラスの居住は考えにくく、より下層の郡雑任クラスが居住したものと思われる。

周辺には同様に佐久郡衙関係と考えられる遺跡がいくつかあるが、同様に関連の度合いに濃淡があり、その検討から未検出の佐久郡衙の位置に迫れないものかと考えている。

## (6) 森平遺跡ほか

(中部横断自動車道関連)

森平遺跡、寄塚遺跡群、今井西原遺跡、今井宮の前遺跡について来年度刊行する報告書作成のための整理作業を進めた。今年度の主な作業内容は、遺構図のデジタルトレース、遺物の接合・抽出・実測・トレース等である。ここでは森平遺跡の整理状況について記す。

森平遺跡は平成17・18年度に発掘調査が行われた。千曲川へ流れ下る湯川右岸の低位段丘に立地する。湯川流域は、北西の久保遺跡、西一本柳遺跡、五里田遺跡、根々井芝宮遺跡、川原端遺跡、それに寄塚遺跡群など弥生時代中期後半の遺跡が佐久地方で最も多く集中する地域である。森平遺跡もこうした遺跡群のひとつとして位置づけることができる。

遺構は弥生時代が中心であり、竪穴住居跡21軒と平地式住居を含む掘立柱建物跡13棟、土坑数基が検出された。この他には古代の溝跡9条がみられるのみである。弥生時代の住居跡は中期後半19軒、後期2軒であり、中期後半で一旦集落は途絶えている。

注目されるのは中期後半の住居跡SB01である。本遺跡では炭化材が認められる住居跡が7軒あり、住居廃絶時に火入れ行為がなされたと考えられるが、本住居跡もそのひとつである。

規模は約6.1×5.2mを測り南北にやや長い。検出面からの深さは約30cmである。炭化材や焼土とともに、多量の土器や石器、礫、焼骨が出土している。

土器は十数点を完形近くにまで復元できた。これらのうち図示した無頸壺は類例をあまりみないタイプである。口縁を逆位にした状態で出土し、外面には赤彩を施している。口縁部の最大径は18.7cm、高さは14.1cm、口径は9.4cmである。体部は壺の胴下部と同じに外反し、内面はハケ調整する。口縁端部には刻みを巡らす。上面には2個で1組となる孔が2箇所あり、おそらく木製の蓋をひもで留めていたものと考えられる。

石器は完形の太型蛤刃石斧2点等の出土をみる。

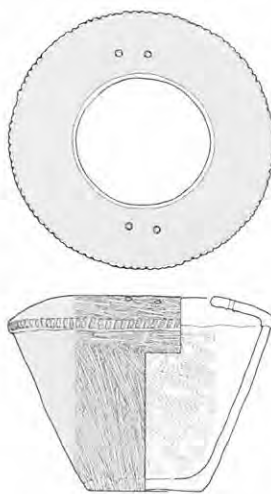
焼骨は被熱による破砕を受けて形をとどめないものが多いが、茂原信生京都大学名誉教授と獨協医科大学櫻井秀雄氏の鑑定を受けた結果、シカの切歯や脛骨に同定できた個体もある。このうち右脛骨遠位端は軟部（肉など骨以外の組織）が付着した状態で焼かれていたことが判明している。



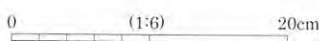
図43 SB01 作業風景（矢印が図示した土器）



図44 SB01 遺物出土状況（矢印が図示した土器）



右：図45 出土状況  
左：図46 実測図  
(縮尺1:6)



## (7) 奥日影遺跡ほか

(中部横断自動車道関連)

奥日影遺跡と小山寺窪遺跡は佐久穂町高野町に所在する。両遺跡とも、八ヶ岳東麓の千曲川支流北沢川右岸の丘陵上にある。奥日影遺跡は平成20・22年度、小山寺窪遺跡は平成20～23年度に発掘調査を実施した。

本年度は両遺跡について、報告書刊行に向けた本格整理作業を実施した。主な作業内容は、遺構では図面修正、デジタルトレース、遺物では分類・接合・計測・台帳作成等を中心に実施した。以下、今年度作業で判明した注目点を紹介する。

**奥日影遺跡** 平成22年度に発見された須恵器窯跡は、半地下天井架構式の構造で、前庭部と燃焼部から焼成部の下方部分が残存した窯跡ある。この窯跡で焼かれた須恵器蓋の表面に、大きさが5mm程度の発泡体が観察された(図47)。発泡体の気泡観察から黒曜石であることがわかった。黒曜石は高温で熱されると発泡することがわかっており、現在も黒曜石パーライトとして建材などに用いられている。この発泡した黒曜石は、須恵器の特定器種に限定されずにみられ、発泡によって破損した破片もあることから、胎土自体に黒曜石が混じっていたことがわかる。黒曜石の混入した原因として、遺跡やその周辺の地層に、もともと八ヶ岳の噴火で飛んできた黒曜石が含まれていることから、偶然混入したと考えられる(図48)。この特徴から、須恵器の供給先がわかるかもしれない。



図47 須恵器に見られる黒曜石



図48 自然の地層に含まれる黒曜石(原石)

**小山寺窪遺跡** 年報25号(2008)で紹介された土坑(SK569)を含む4基の土坑は、出土した土師器に熱ハジケ・歪み・亀裂がある破片が多く、焼成粘土塊もあることから、土師器焼成坑として認定した。また、焼け具合が須恵器様のものもあることから、土師器のほかに軟質須恵器を生産していた可能性がある。時期は、9世紀後半と考えられる。焼成坑の平面形状は、楕円形であることから山梨県との共通性が指摘できる。ここで生産された土師器でも、奥日影遺跡と同様に胎土に黒曜石が混じることが確認できた(図49)。焼成温度が須恵器ほど高くないため、黒曜石の発泡度合は低く、表面が溶融したものが観察される。

そのほか生産関連遺構として、ロクロピットを持つ工房跡もあることから、古代には土器を生産していた遺跡として評価できる。

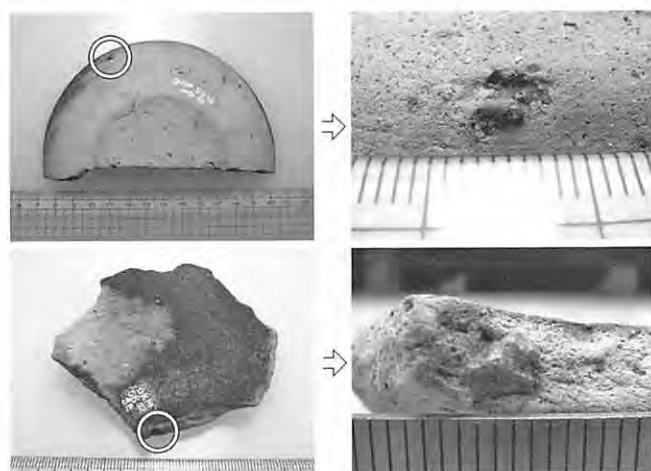


図49 土師器に見られる黒曜石



## (8) 満り久保遺跡ほか

(中部横断自動車道関連)

満り久保遺跡は佐久穂町大字畑に所在する。八ヶ岳を源として、東流する大石川左岸の丘陵鞍部に位置する。平成 21 年度に発掘調査が実施された。

本年度は旧石器時代の遺構・遺物を対象とした報告書刊行に向けた本格整理作業を実施した。主な作業内容は、石器について洗浄、注記、観察、分類、法量計測、台帳作成、接合、実測、トレースを行い、図面について全体図、基本層序図、属性別石器分布図を作成した。

整理作業を経て台帳登録を行った結果、石器数が確定した。旧石器時代の石器総数は 3,137 点、器種組成は槍先形尖頭器 73 点、槍先形尖頭器製作剥片 41 点、細石刃核 3 点、細石刃 7 点、ナイフ形石器 3 点、搔器 5 点、削器 4 点、挟入石器 1 点、石刃 6 点、2 次加工のある剥片 6 点、石核 15 点、打面再生剥片 1 点、剥片 1,907 点、碎片 1,064 点となった。細石器やナイフ形石器を除く石器の大部分が槍先形尖頭器石器群に属すると考えられる。

石材組成は黒曜石 3,085 点、チャート 16 点、頁岩 15 点、珪質頁岩 9 点、ホルンフェルス 6 点、ガラス質黒色安山岩 5 点、流紋岩 1 点と黒曜石が大多数を占める。

黒曜石について望月明彦氏に委託して蛍光 X 線分析装置を用いた産地推定を行った。その結果、1,820 点の産地が推定された。蓼科冷山群が 1,723

点と圧倒的に多く、次いで諏訪星ヶ台群 46 点と続く。少数ではあるが、注目される産地群として産地不明の中原群が 8 点、栃木県に所在する高原山甘湯沢群 5 点の存在がある。また、地山のローム層中に含まれる 23 点の黒曜石の自然石は蓼科双子山群と推定された。

**高尾 A 遺跡** 高尾 A 遺跡は佐久市前山に所在する。八ヶ岳から北東にのびる丘陵の南東斜面に立地する。平成 21 年度に確認調査、平成 23 年度に本格調査が実施され、旧石器時代の石器群が検出されている。

本年度は旧石器時代の遺構・遺物を対象とした報告書刊行に向けた本格整理作業を実施した。主な作業内容は、石器について観察、分類、法量計測、台帳作成、接合、実測、トレースを行い、図面について全体図、基本層序図、属性別石器分布図を作成した。

整理作業を経て台帳登録を行った結果石器数が確定した。旧石器時代の石器総数は 365 点、器種組成は台形石器 4 点、搔器状石器 2 点、貝殻状刃器 40 点、削器 4 点、厚刃搔器 1 点、剥片 237 点、碎片 74 点、石核 3 点となった。旧石器時代に属す石器石材のすべてが黒曜石であった。

黒曜石について望月明彦氏に委託して蛍光 X 線分析装置を用いた産地推定を行った。その結果、旧石器時代に属す黒曜石のすべて 288 点が蓼科冷山群に推定された。

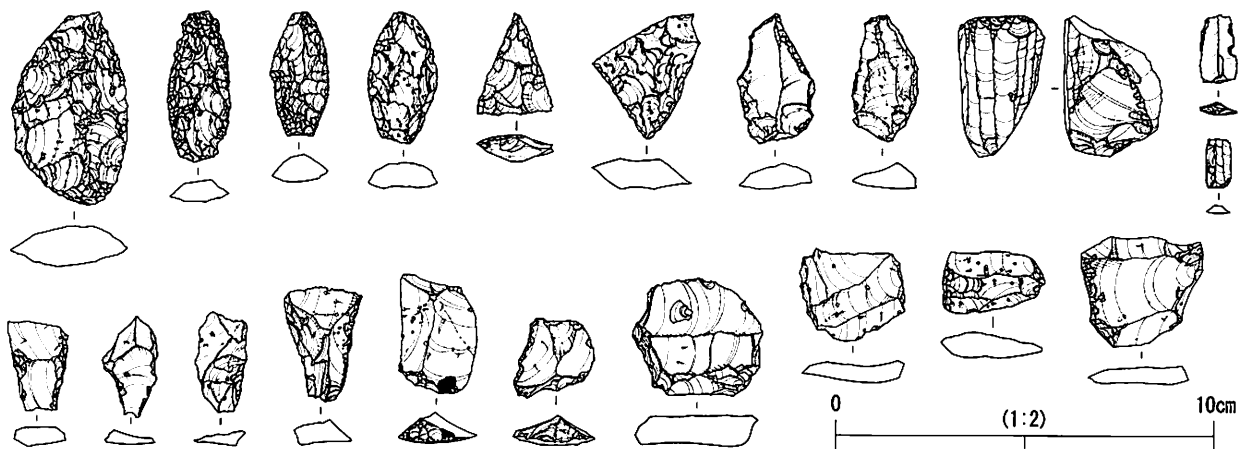


図 50 満り久保遺跡、高尾 A 遺跡出土の石器（上段：満り久保遺跡、下段：高尾 A 遺跡）

## Ⅳ 普及公開活動の概要

### (1) 国補事業の概要

平成 24 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金

#### 1. 体験学習等メニュー

##### ①夏休み考古学チャレンジ教室の開催

実施日：8月3日（金）・4日（土）

内 容：埋蔵文化財センターの業務を公開し、  
文化財保護思想の啓発をはかる。

- ・埋蔵文化財に関わる業務の体験と見学
- ・発掘調査に伴う出土遺物の展示
- ・体験教室（土器接合・拓本・石器体験・石のアクセサリ作りほか）

参加者：266名



図 51 土器の模様を学び、拓本をとる参加者



図 52 身近な遺跡を調べ、説明を聞く参加者

##### ②発掘体験の実施

実施日：5月20日（日）、7月27日（金）、8月  
7日（火）、8月9日（木）、10月3日（水）

内 容：遺跡の発掘体験を通して、地域の文化  
財に関心をもち、大切さを学ぶ。

参加者：長野市上松公民館ほか 92 名  
長野日本大学長野小学校 68 名  
長野市吉田田町公民館ほか 31 名

中野市笠倉地区・碓地区 16 名

長野市吉田小学校 32 名



図 53 調査研究員を手本に遺跡を掘る参加者

#### 2. センター展示室の整備メニュー

展示室が整備され、オープンしました。



図 54 展示室で遺物の説明を聞く見学者

### 3. 広報・資料作成メニュー

#### ①信州の遺跡

【第1号】 11月30日（金）発行

内 容：県内の遺跡情報を掲載し、文化財を身近に感じ、大切さを考える。

- ・最新報告書から（中野市柳沢遺跡、千曲市東條遺跡、佐久市西一里塚遺跡群）
- ・もっと知ろう 長野県埋蔵文化財センター
- ・埋文ほっと情報（茅野市駒形遺跡、長和町黒耀石ふるさとまつり）
- ・長野県教育委員会だより（県内の発掘調査状況）
- ・考古学の窓（縄文時代中期の釣手土器）

【第2号】 2月21日（木）発行

- ・最新発掘調査から（長野市浅川扇状地遺跡群、長和町黒耀石原産地遺跡、小海町天狗岩岩陰遺跡、飯田市恒川遺跡群）
- ・埋文ほっと情報（塩尻市平出遺跡、長野市松代城跡附新御殿跡）
- ・東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の支援
- ・長野県埋蔵文化財センターに展示室
- ・長野県埋蔵文化財センター 30 周年企画展
- ・長野県教育委員会だより（県内の発掘調査状況）
- ・考古学の窓（縄文時代の水さらし場）

#### ②かがみちゃんと学ぼう ジュニアこうこがく

【第1号】 3月22日（金）発行

内 容：新しく歴史を学ぶ県内の小学生を対象に、遺跡や遺物を用いた学習の副教材。

- ・遺跡を掘る
- ・縄文土器を知ろう
- ・縄文土器のうつりかわり など

### 4. 案内板・説明板メニュー

設置日：3月15日（金）

場 所：千曲市八幡字東條

内 容：国道18号坂城更埴バイパス関連遺跡についての、遺跡解説板の設置（東條遺跡・社宮司遺跡）

協 力：長野県教育委員会 千曲市 千曲市教育委員会



図 55 発掘調査地近傍に設置した遺跡説明板

### 5. 埋蔵文化財センター 30 周年記念事業メニュー

#### ①企画展の開催

名 称：長野県埋蔵文化財センター 30 周年企画展「掘ってわかった信州の歴史」

開催日：3月16日（土）～6月2日（日）

会 場：長野県立歴史館

内 容：30 年間に発掘調査した遺跡から、45 遺跡約 800 点の出土遺物を展示・公開する。  
期間内、信州の遺跡講座（8 回）を開催

#### ②記念誌の発行

発行日：3月8日（金）

総ページ数：95 ページ

#### ③記念講演会・フードトーク&ミニコンサート

開催日：3月23日（土）

講 演：縄文時代の食文化

講 師：渡辺 誠（名古屋大学名誉教授）

出演者：渡辺 誠

会田 進（長野県考古学会会長）

美咲（長和町黒耀石親善大使・シンガーソングライター）



図 56 30 周年記念事業 企画展のようす



## (2) 展示会・講演会

### ①長野県埋蔵文化財センター速報展

#### 「長野県の遺跡発掘 2012」

主催：長野県埋蔵文化財センター、長野県立歴史館、長野県伊那文化会館

＜長野県立歴史館会場＞

会 期：平成 24 年 3 月 17 日(土)～5 月 13 日(日)

来館者：10,659 名

内 容：主に今年度調査・整理した 20 遺跡と市町村（箕輪町・山形村各 1 遺跡）の出土品約 440 点を展示公開した。

○遺跡調査報告会 3 月 24 日(土) 聴講者 107 名  
長野市浅川扇状地遺跡群ほか 3 遺跡の報告。

○講演会：4 月 22 日(日) 聴講者 101 名  
演 題：「山と海の考古学」  
講 師：松井章 奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長

○埋文体験デー：5 月 3 日(木) 参加者 121 名  
歴史館の内外にブースを設け、土器洗いや測量機器・カメラ操作、拓本取りなどの体験型イベントを実施。親子連れでにぎわった。

＜長野県伊那文化会館会場＞

会 期：平成 24 年 7 月 28 日(土)～8 月 19 日(日)

来館者：1,438 名

内 容：歴史館と同様の巡回展示。

○講演会・遺跡調査報告会

8 月 11 日(土) 聴講者 67 名  
演 題：「天竜川流域の古墳文化」

講 師：小林正春 前飯田市教育委員会教育次長  
遺跡報告：飯田市鬼釜古墳・箕輪町上の林遺跡



図 57 松井章先生講演「山と海の考古学」



図 58 伊那文化会館「埋文体験デー」

○埋文体験デー：7 月 28 日(土) 参加者 66 名

### ② 県庁ロビー展

会 場：長野県庁 1 階 玄関ホール

会 期：平成 25 年 2 月 18 日(月)～2 月 22 日(金)

内 容：24 年度の成果をパネルと出土品で紹介。

### ③「写真でみる長野県の遺跡発掘 2013」

会 場：しなの鉄道屋代駅 千曲市民ギャラリー

会 期：平成 25 年 2 月 25 日(月)～3 月 3 日(日)

内 容：30 周年企画展のプレイベント。パネルと出土品で紹介。

共 催：長野県立歴史館、千曲市教育委員会

### ④長野県埋蔵文化財センター 30 周年企画展

「掘ってわかった信州の歴史」長野県の遺跡発掘 2013

主 催：長野県埋蔵文化財センター、長野県立歴史館、長野県伊那文化会館

＜長野県立歴史館会場＞

会 期：平成 25 年 3 月 16 日(土)～6 月 2 日(日)

内 容：30 年間の発掘調査により、明らかとなった信州の歴史を県民に公開。塩尻市吉田川西遺跡出土品（重要文化財）ほか 45 遺跡、約 800 点。

○記念講演会・フードトーク&ミニコンサート

「縄文人の食物語～自然の恵みのレシピ～」

3 月 23 日(土) 聴講者 150 名

演 題：「縄文時代の食文化」

講 師：渡辺 誠（名古屋大学名誉教授）

フードトーク&ミニコンサート

出演者：渡辺 誠

会田 進（長野県考古学会会長）

美咲（シンガーソングライター）

（伊那文化会館：7 月 13 日～8 月 4 日開催予定）

### (3) 現地説明会

県教育委員会との共催事業として、5 遺跡で実施した。参加者は延べ 376 名であった。

#### ①琵琶島遺跡（中野市）

8 月 9 日（木） 16 名 晴

地元の住民の方向けの説明会で、体験発掘を併せて実施した。弥生時代の竪穴住居跡等の集落を見学していただいた。ご家族で参加される方もおられ、地元の歴史について、積極的に質問される姿がみられた。

#### ②浅川扇状地遺跡群（長野市）

10 月 20 日（土） 128 名 晴

弥生から平安時代の竪穴住居跡を主として見学していただいた。土に埋まった状態の土器等を見ることができる機会に、参加者からは、感嘆の声が聞こえた。



図 59 説明に聞き入る参加者（浅川扇状地遺跡群）

#### ③兜山遺跡（佐久市）

7 月 14 日（土） 122 名 晴

古墳の横穴式石室を見学いただいた。佐久地域の千曲川左岸につくられた古墳石室の調査状況を直にみられる機会となった。併せて、佐久市教育委員会、地元保存会のご協力のもと、旧大沢小学校の資料室の公開も実施した。

#### ④風張遺跡（飯田市）

7 月 29 日（日） 29 名 晴

地元の住民の方向けの説明会で、掘立柱建物跡



図 60 古墳石室の説明の風景（兜山遺跡）

で構成される近世の屋敷などを見学いただいた。

地元の遺跡調査として、説明に興味深く聞き入っていた。

#### ⑤神之峯城跡（飯田市）

12 月 1 日（土） 81 名 晴

山城の中につくられた寺院跡や墓を主に見学いただいた。尾根上に見学地があるため、見学者に坂道を歩いていただいたにもかかわらず、調査事例の少ない中世の山城ということで、多くの方の参加をいただいた。



図 61 出土遺物の見学風景（神之峯城跡）

## V 研修等の概要

### (1) 講師招聘などによる指導

月 日	所 属	職・氏名	指導内容
4 月 22・23 日	奈良文化財研究所埋蔵文化財センター	センター長 松井 章	佐久市西近津遺跡群他の出土動物骨や種実について
6 月 13・14 日 7 月 10・20 日 9 月 19 日	飯田歴史研究所	客員研究員 金澤雄記	風張遺跡の近世遺構について
6 月 28・29 日	石川県埋蔵文化財センター	調査部主幹 久田正弘	琵琶島遺跡の検出遺構・出土遺物について
8 月 10 日	長野県小海高等学校	教諭 寺尾真純	兜山遺跡の古墳横穴式石室に用いられた石材の採取地指導
8 月 11 日	飯田市教育委員会	前教育次長 小林正春	鬼釜古墳の被葬者像及び当時の社会・集落構成等について
11 月 19 日～21 日 2 月 27 日～3 月 1 日	京都大学	名誉教授 茂原信生	西近津遺跡群ほかの出土骨について
	総合研究大学院大学	准教授 本郷一美	
	獨協医科大学	技術職員 櫻井秀雄	
11 月 21 日	長野県文化財保護審議会 史跡考古部会	会田 進	神之峯城跡の調査について
		小野 昭	
		笹澤 浩	
12 月 5 日	滋賀県立大学	准教授 中井 均	神之峯城跡の調査について
12 月 6 日	飯田市上郷考古博物館	前館長 岡田正彦	神之峯城跡の調査について
12 月 19 日	御代田町役場	小山岳夫	森平遺跡の弥生土器について
1 月 29 日～31 日	京都大学	名誉教授 茂原信生	浅川扇状地遺跡群の出土骨について
2 月 20 日	信州大学	教授 原山 智	周防畑遺跡群出土の石器・石製品の石材鑑定
3 月 23・24 日	名古屋大学	名誉教授 渡辺 誠	西近津遺跡群ほかの調査指導

### (2) 全埋協等への参加

期 日	会 議 名	開催地	参 加 者
5 月 17・18 日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会	北九州市	窪田久雄 大竹憲昭 窪田秀樹
6 月 21・22 日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会	千葉市	窪田久雄 大竹憲昭 岡村秀雄
7 月 24 日	技術者セミナー	長野市	町田勝則
7 月 30 日	文化財保護行政市町村担当者会議	塩尻市	佐藤国昭 櫻井秀雄 谷 和隆
10 月 18・19 日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会中部・北陸ブロック連絡会	長野市	窪田久雄 会津敏男 大竹憲昭 窪田秀樹 上田典男 岡村秀雄



期 日	会 議 名	開催地	参 加 者
10月 8・9 日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会	富山市	会津敏男 岡村秀雄 町田勝則
11月 8 日	市町村埋蔵文化財担当者発掘調査技術研修会	松本市	上田典男 廣田和穂
11月 7 日	関東甲信越静地区埋蔵文化財行政担当者会議	埼玉県	谷 和隆
11月 22 日	考古資料保存処理講習会	千曲市	上田 真 市川桂子 寺内貴美子
11月 21 ～ 22 日	関東甲信越静地区埋蔵文化財行政担当者職員共同研修協議会	千葉市	曳地隆元 宮村誠二
2 月 14 日	博物館等関係職員研修会	千曲市	上田 真 中野亮一 栗林幸治
2 月 5 ～ 7 日	埋蔵文化財担当職員等講習会	東京都	大竹憲昭 町田勝則
3 月 15 日	第6回指導主事・専門主事会議	長野市	栗林幸治 三木雅博

### (3) 研修および資料調査

期 日	参加者	場 所	内 容
6 月 18 日～ 22 日	三木雅博	奈良県	奈良文化財研究所 専門研修「建築遺構調査過程」
6 月 19 日～ 20 日	鶴田典昭 内堀 団	埼玉県	鳩山町教育委員会、(公財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
11月 12 日～ 16 日	宮村誠二	奈良県	奈良文化財研究所 専門研修「土器・陶磁器調査過程」
12月 12 日	岡村秀雄 中野亮一 内堀 団 宮村誠二	群馬県	群馬県渋川市金井東裏遺跡現地公開
12月 14 日～ 12月 21 日	前田一也	奈良県	奈良文化財研究所 専門研修「報告書作成過程」
2 月 9 日～ 2 月 10 日	柳澤 亮	東京都	東国古代遺跡研究会第3回研究大会「古代東国の地域開発」

### (4) 学会・研修会などでの発表

月 日	派遣先	担当者	内 容
5 月 13 日	長野県考古学会	河西克造	総会における遺跡報告会「飯田市鬼釜古墳」
5 月 20 日	須坂市立博物館	綿田弘実	中部高地の洞窟遺跡と石小屋洞穴
6 月 23 日	日本文化財科学会29回京都大会	上田典男 廣田和穂	「銅鐸と銅戈が出土した長野県柳澤遺跡の埋蔵環境」ほか
9 月 23 日	上田市立信濃国分寺資料館	櫻井秀雄	市民講座「洞窟に葬られた集団のナゾ～丸子町鳥羽山の古代洞窟葬所～」
12月 16 日	明治大学	岡村秀雄	「縄文時代の資源利用」シンポジウム
11月 10 日	長野県立歴史館	廣瀬昭弘	長野県立歴史館秋季企画展「縄文土器展（後期）」特別講座第 1 回「縄文土器のはじまり」
12月 4 日	信州大学	中野亮一	平成24年度信州大学人文学現代職業論Ⅱ 「遺跡発掘する高校の先生」

(5) 市町村・関係機関などへの協力

月 日	依頼元	担当者	協力・指導内容
5 月 12 日	大沢地区社会体育館	藤原直人 若林 卓	中部横断自動車道関連の佐久市大沢地区内の発掘調査報告
5 月 21 日	佐久市教育委員会	河西克造	国史跡龍岡城跡保存管理計画策定委員会
5 月 22 日	長野県教育委員会	上田典男 谷 和隆	長野県の埋蔵文化財行政の整備充実に関する協力者会議
5 月 31 日	信州黒曜石フォーラム実行委員会	大竹憲昭 谷 和隆	2012年度第 1 回信州黒曜石フォーラム実行委員会
	長野県教育委員会	大竹憲昭 谷 和隆	平成 24 年度黒曜石原産地遺跡関連市町村保存活用連絡会議
6 月 11 日	柳沢区民会館	廣田和穂	「調査報告書にみる柳沢遺跡」の講演
6 月 26 日	長野県教育委員会	上田典男 谷 和隆	長野県の埋蔵文化財行政の整備充実に関する協力者会議
7 月 6 日	伊那市教育委員会	河西克造	史跡高遠城跡整備委員会
7 月 26 日	佐久市教育委員会	河西克造	国史跡龍岡城跡保存管理計画策定委員会
8 月 5 日	長和町教育委員会	大竹憲昭	鷹山遺跡群調査団会議
9 月 5 日	松本市教育委員会	河西克造	虚空蔵山城跡発掘調査の現地指導
10 月 12 日	佐久市教育委員会	河西克造	国史跡龍岡城跡保存管理計画策定委員会
10 月 17 日	飯田市美術博物館	市川隆之	飯田城址発掘調査により出土した中近世陶磁器について
10 月 19 日	長野県教育委員会	上田典男 谷 和隆	長野県の埋蔵文化財行政の整備充実に関する協力者会議
10 月 27 日	十日町市博物館	綿田弘実	「釣手土器について」の講演
11 月 4 日	筑北村教育委員会	柳澤 亮	筑北村考古資料館体験イベント
11 月 22 日	伊那市教育委員会	河西克造	史跡高遠城跡整備委員会
11 月 23・24 日	縄文セミナーの会	綿田弘実	中野市千田遺跡出土資料の実見・観察
12 月 12 日	篠ノ井共和地区郷土を知る会	大竹憲昭	センター保管の資料見学
12 月 18 日	長岡市立科学博物館	綿田弘実	「中野市千田遺跡出土品について 他」の講演
1 月 31 日	長野県教育委員会	上田典男 谷 和隆	長野県の埋蔵文化財行政の整備充実に関する協力者会議
2 月 3 日	吉田田町公民館	西 香子 中野亮一	平成 24 年度浅川扇状地遺跡群調査報告
2 月 5 日	下呂市教育委員会	谷 和隆	下呂市大林遺跡発掘調査報告書作成に伴う出土品の歴史的評価について
2 月 5 日	箕輪町教育委員会	櫻井秀雄	箕輪町中山遺跡の発掘調査で出土した遺物について
3 月 14 日	千曲市文化財センター	市川隆之	栗佐遺跡群及び松田館跡で出土した中世から近世の陶磁器及び土器について

# (6) 学校関係への協力・指導

期 日	学校名	内 容	担当者
4月20日	長野市立鍋屋田小学校	出前授業	柳澤 亮 内堀 団
5月7日	松本市立旭町小学校		町田勝則 曳地隆元
7月10日	長野日本大学長野小学校		町田勝則
7月12日	飯田市立旭ヶ丘中学校		大竹憲昭
	飯綱町立飯綱中学校	職場体験	大竹憲昭 廣瀬昭弘
7月27日	長野日本大学長野小学校	体験学習（発掘作業）	町田勝則 西 香子
7月23日～8月3日	長野工業高等専門学校	職場体験	大竹憲昭 廣瀬昭弘
7月24日・25日	長野市立犀陵中学校		
8月21日・22日	長野市立篠ノ井西中学校		
9月3日	長野市立吉田小学校	出前授業	町田勝則 西 香子
9月18日	長野市立吉田小学校	現場見学	町田勝則 西 香子
10月3日	長野市立吉田小学校	体験学習（発掘作業）	西香子 中野亮一
10月5日	長野市立川中島小学校	体験交流講座	大竹憲昭
10月10日・11日	長野市立篠ノ井東中学校	職場体験	大竹憲昭 廣瀬昭弘
	長野市立広徳中学校		
10月10日～12日	長野市立松代中学校		
10月25日～26日	長野市立川中島中学校		
11月26日～12月12日	長野市稲荷山養護学校更科分教室		

# (7) 資料の貸し出し

貸与先	貸与資料	貸与期間	備 考
國學院大學大学院文学研究科 柳田康雄	中野市柳沢遺跡出土の銅戈、銅鐸写真	掲載許可	銅戈8点、銅鐸5点（執筆者本人が資料調査時に撮影した写真を使用）
佐久考古学会	佐久市西一里塚遺跡群出土の人形土器写真	デジタルデータを提供	2点
(有) 龍鳳書房	中野市柳沢遺跡の銅戈・銅鐸出土状況写真		1点
(株) ジャパン通信情報センター	飯田市鬼釜古墳現地説明会資料		1部
長野市埋蔵文化財センター	長野市浅川扇状地遺跡群出土円面硯	9月6日～9月21日	資料を貸し出し、借用者にて写真撮影
長野市吉田田町公民館	長野市浅川扇状地遺跡群発掘調査写真パネル	10月25日～10月30日	長野市吉田田町区文化祭で展示
(株) 北信エルシーネット北信ローカル事業部	写真家高木こずえ氏撮影の中野市南大原遺跡土器出土状況写真	掲載許可	1点
弘前大学人文学部	中野市川久保・宮沖遺跡および佐久市西近津遺跡群の炭化米	9月25日～翌9月24日	資料の形状分析とDNA分析のため

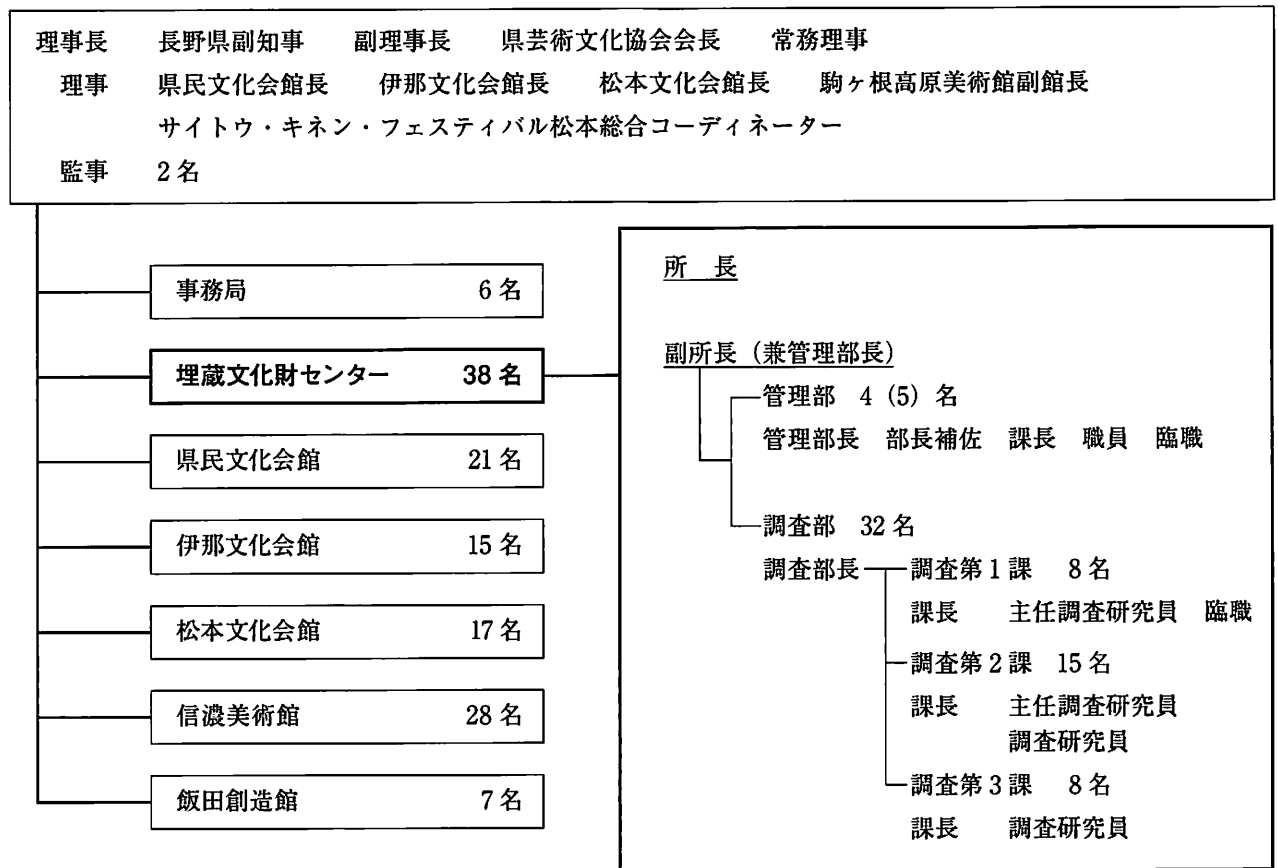


## Ⅵ 組織・事業の概要

### (1) 組 織

財団法人長野県文化振興事業団

【役員】 10名



### (2) 職 員（事務系臨時職員を除く）

H25. 3. 10現在

所 長		窪田久雄
副 所 長		会津敏男
管 理 部	管理部長(兼)	会津敏男
	管理部部長補佐	佐藤国昭
	管理課長	窪田秀樹
	職 員	戸谷良子
調 査 部	調査部長	大竹憲昭
	調査課長	〔第1課〕 上田典男 〔第2課〕 岡村秀雄 〔第3課〕 町田勝則
	主任調査研究員	〔第1課〕 綿田弘実 市川隆之 河西克造 〔第2課〕 廣瀬昭弘
	調査研究員	〔第1課〕 鶴田典昭 三木雅博 古賀弘一 〔第2課〕 上田 真 藤原直人 伊藤友久 若林 卓 櫻井秀雄 栗林幸治 寺内貴美子 市川桂子 谷 和隆 柳澤 亮 内堀 団 曳地隆元（平成24年12月退職） 宮村誠二 〔第3課〕 中野亮一 黒岩 隆 西 香子 廣田和穂 前田一也
	調 査 員	〔第3課〕 大澤泰智 鈴木時夫

## (3) 事業

経費はH 25.2.10現在

事業名			委託事業者	事業個所	事業内容	経費（千円）
受託事業	調査・整理・報告	中部横断自動車道	国土交通省 関東地方整備局	佐久市 近津遺跡群ほか	発掘作業 整理作業 報告	327,803
		一般国道18号 (野尻バイパス)	国土交通省 関東地方整備局	信濃町 大道下遺跡ほか	整理作業 報告	2,077
		一般国道474号 飯橋道路	国土交通省 中部地方整備局	飯田市 風張遺跡ほか	発掘作業	106,417
		県道高田若槻線	長野建設事務所	長野市 浅川扇状地遺跡群	発掘作業	96,877
		県道豊田中野線	北信建設事務所	中野市 琵琶島遺跡	発掘作業	45,923
		県道三水中野線		中野市 南大原遺跡	発掘作業	10,127
		北陸新幹線	北陸新幹線建設局	長野市 沢田鍋土遺跡ほか	整理作業 報告	7,470
		替佐・柳沢築堤	国土交通省 千曲川河川事務所	中野市 千田遺跡ほか	整理作業 報告	19,761
	研修等	調査研究員研修事業等	県教育委員会	奈良文化財研究所等での研修への参加、広報誌の発刊	研修等	218
自主事業	普及啓発等	3月：速報展 長野県の遺跡発掘2012 長野県立歴史館 7月：速報展 長野県の遺跡発掘2012 県伊那文化会館 8月：夏休み考古学チャレンジ教室 2月：屋代市民ギャラリー展 3月：30周年企画展「掘ってわかった信州の歴史」 長野県の遺跡発掘2013 長野県立歴史館 随時：遺跡の現地説明会 広報誌等の発刊 「埋蔵文化財センター 30周年記念誌」 「信州の遺跡」1・2号 「ジュニア考古学」 調査遺跡解説板設置				2,850

**長野県埋蔵文化財センター年報29 2012**

発行日 平成25年3月31日

編集発行 (財)長野県文化振興事業団

長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田963-4

電話:026-293-5926 FAX:026-293-8157

E-mail:info@naganomaibun.or.jp

印刷 三和印刷株式会社